



次の20周年に、 受け継いでいきたい 小学校区のもの・こと

令和7年は、旧伊勢市・小俣町・二見町・御園村が合併し、現在の伊勢市となってから20周年の年となります。伊勢市の小学校では、令和6年度、「次の20周年に受け継いでいきたい学校区のもの・こと」をテーマに地域学習等に取り組みました。

取組を進めた学年（令和6年度）、受け継いでいきたいと調べた内容等は、各学校で選んでいます。

掲載した写真等に関しましては、許諾をいただいております。

伊勢市教育委員会

市制 20 周年記念



次の20年へ

～ 伝統・つながり・誇り ～



進修小学校

令和 6 年度 5年生の取組

わたしたちの通う進修小学校 わたしたちの住む進修校区

初めに、わたしたちが通う進修小学校を紹介します。進修小学校は、宇治浦田町にある小学校です。令和6年度12月現在、全校児童161人の学校です。人数はそれほど多くありませんが、明るく楽しい学校です。



5月には全校で校区の五十鈴公園に遠足に行きました。たてわり班の6年生が中心となって遊びを考えてくれました。



7月には平和集会がありました。戦争や平和について学習をし、分かったことや考えたことをたてわり班で交流しました。



10月には体育発表会がありました。ダンスやフラッグを発表しました。他にも、徒競走や学年別の種目をしました。

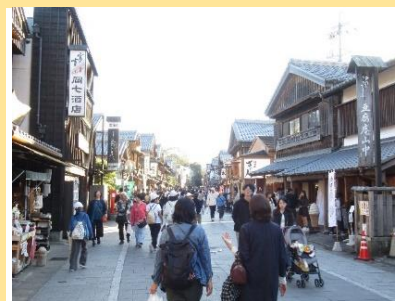
学校の周りには有名なものや、すてきなものがたくさんあります。まずは伊勢神宮内宮があります。他にも月讀宮、宇治神社、猿田彦神社など、たくさんの神社があります。伊勢神宮内宮の近くにはおはらい町やおかげ横丁があります。観光で来たことのある方もたくさんみえると思いますが、進修小学校の児童の中には、おはらい町に住んでいる人もいます。さらに遠足で行った五十鈴公園、三重交通Gスポーツの杜 伊勢（三重県営総合競技場）もあります。陸上の大会で来たことのある人も多いと思います。また、五十鈴川も流れています。夏になると、家族で遊びに行き、泳ぐこともあります。このように校区にはすてきなものや自まんでできるものがたくさんありますが、「おはらい町」、「宇治神社祭礼の会式」、「猿田彦神社の御田祭」の3つのことをこれからの20年に残していきたいものとして紹介します。



宇治神社



猿田彦神社



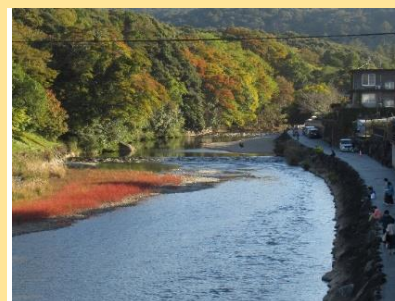
おはらい町



おかげ横丁



三重交通Gスポーツの杜
伊勢



五十鈴川

おはらい町

伊勢神宮内宮いせじんぐうないくうの前でさかえる「おはらい町」。宇治橋うじばしから五十鈴川いすずがわにそっておよそ800m続きます。いろいろなお店があり、たくさんの観光客でにぎわっています。令和5年には、約480万人も観光客が来たそうです。私たちも家族でおはらい町に行ったり、内宮にお参りに行ったりすることもあります。校区なので、おはらい町に住む友だちの家に行ったり、友だちとおはらい町を楽しんだりすることもあります。おはらい町に住んでいる家族は、約300世帯もあります。また、家庭科のお茶のいれ方を学習したときには、おはらい町のお茶屋さんに来ていただき、おいしいお茶のいれ方を教えてもらったこともあります。

おはらい町のことをもっと知ろうと思って、わたしたちはおはらい町でお店を営み、おはらい町の町づくりに関わる前田さんにお話を聞きました。お話を聞いて、わたしたちにとって身近で、生まれたときから当たり前のようにあるおはらい町ですが、たくさんの地域の方の思いがあることが分かりました。



おはらい町は昔から伊勢神宮の鳥居前町としてお店などはたくさんありましたが、今のよ
うな風景になったのは、30年ほど前だそうです。電柱をなくしたり、道路を石畳にしたり
して、お伊勢さんらしい景観に整えました。同じころ、おかげ横丁も完成しました。みんな
がよく知る今のおはらい町の姿になりました。景観が整えられた後は、「人づくり」の活
動が始まりました。「人づくり」の活動のステップアップとして、もちつき大会や七夕祭り
なども行ったそうです。今は行われていない活動もありますが、おはらい町では今でもいろ
いろな行事や活動が行われていて、町づくりにこめた願いや思いは今でも受けつがれている
と思います。また、今では防災にも力を入れているそうです。

おはらい町には「人の力」を感じます。おはらい町でたくさんの行事が行われ、わたした
ちも参加しますが、おはらい町に住む方の活気やつながりを感じます。また、観光客をもて
なす心、おはらい町や伊勢の町を大切に思う心、誇りに思う心もあります。みんなで協力
し、町をよくしていこうという思いをわたしたちも受けついでいきたいと思います。

伊勢おはらい町会議 まちづくり宣言

- 一、私たちは、この町に暮らすことを誇りとし、感謝して生活します。
- 一、私たちは、おはらい町の伝統的なたたずまいを、積極的に守ります。
- 一、私たちは、参拝のお客さまを、真心込めてもてなします。
- 一、私たちは、子々孫々まで喜んで住まうことができる、生き生きとした町をつくれます。
- 一、私たちは、このまちに集うすべての人の、安心と安全を考えたまちづくりを目指します。

宇治神社祭礼の会式

宇治神社は、宇治今在家町にある神社です。

「足神さん」とも呼ばれる神さまもまつられ、「足が速くなるように」とスポーツ選手がお参りされたり、足を痛めた方がお参りされたりすることも多いです。

毎年8月21日に、宇治神社の会式と呼ばれるお祭りがあります。お祭りの昼の部は「子ども川曳」があります。川曳を始める前に、練習した木遣りもひろうします。木遣りの練習は7月から始まります。地域の方が教えてくれました。木遣りのひろうが終わると、川曳が始まります。4年生から6年生の人たちがリーダーとなり、小さい子から6年生の人たちでそろいのハッピー姿でソリを曳きます。五十鈴川にソリを浮かべて、「エンヤ！」と言いながら川曳をします。

子ども川曳は、木遣りを教えてくれる人、安全に川曳ができるように先導してくれる人、事故やケガがないように見守ってくれる人、休けいの時に飲み物を配ってくれる人など地域の方や家族など、たくさんの大人の方に支えてもらっています。



わたしたちは木遣^{きや}りを教えてくれる山中さんに話を聞きました。もともとは20年に一度の式年遷宮^{しきねんせんぐう}や、5年に1回の初穂曳^{はつほびき}で川曳^{かわびき}をしていました。でも、数年に1回しかない行事だと、参加したくても参加できなかったり、技術が受けつがれていったりしません。そこで、毎年子どもたちも川曳^{かわびき}ができるようにしようという地域の方たちが思いを込めて、子ども川曳^{かわびき}を始めたそうです。山中さんも、昔、地域の方に木遣^{きや}りや川曳^{かわびき}を教えてもらったそうです。先人がしてくれたように、次は自分たちが次の世代に教えようという気持ちで今は指導してくれているそうです。そして、何より川曳^{かわびき}が好きだと言っていました。地域の先人たちも、材木を運ぶということを労働にするのではなく、お祭りとして楽しめるものにしてくれたそうです。

また、教育実習に来てくれた先生も小学生のころに会式^{えしき}に参加したそうです。教育実習の先生にも話を聞くと、会式^{えしき}のために、進学や就職で地元をはなれていた人たちが今でも集まってくるそうです。地域のつながりを感じるすてきな行事だと言っていました。

夜の部は、神社下の駐車場に屋台ができて、おまつり広場になります。焼きそばやかき氷などいろいろな屋台が並びます。この屋台はみんなのおうちの人や地域の人がやってくれています。

練習が何度かあったり、当日は暑かったり、大変なところもあったけど、とても楽しかったです。地区の人たちともたくさん関わることができました。いろいろな人がこの伝統ある行事を大切にしていることが伝わってきました。わたしたちもこの行事を大切にしていきたいと思いました。

猿田彦神社 御田祭

猿田彦神社は、物事を良い方へおみちびきになる神様をまつる神社です。猿田彦神社で行われている行事の1つに御田祭があります。御田祭は毎年5月5日に豊作豊漁を願って行われる古くから伝わる行事です。田楽の囃子にあわせて田植えをします。八乙女と呼ばれる小学校3年生女の子が、きれいな着物を着てその田植えを手伝います。私たちが3年生のころも八乙女として何人かが参加しました。昔から伝わる伝統的な行事に参加できたり、きれいな着物を着たりすることができて良かったです。お祝いとして、「お稚児行列」という、5～6歳の子どもが着物を着て、おはらい町などを歩く行事も行われます。女の子は赤い着物に金色の冠、男の子は青の着物に金色の烏帽子の姿で歩きます。小さかったのでくわしいことは覚えていませんが、とてもきんちょうしたことは覚えています。御田祭は、三重県の無形文化財にも指定されています。八乙女や稚児行列は私たちのお父さん、お母さんも子どもころに参加したと言っていました。稚児行列は、今は行われていないそうですが、私たちの子どもも参加できるぐらい、御田祭が続いてほしいと思います。



や おとめ
八乙女



ち ごぎょうれつ
稚児行列

(写真提供：猿田彦神社)

市制 20 周年記念

わたしたちの 修道地区



修道小学校

令和6年度 4年生の取組

250 年前からある「麻吉旅館」



麻屋吉兵衛が商売を始めたので、「麻吉旅館（あさきちりょかん）」という名前になりました。昔は料理店だったそうです。麻吉旅館は建物全体が木でできているので、とても珍しいです。登録有形文化財に指定されています。旅館の敷地には建物が6棟もあります。どの建物も中はとても太い木のはりで支えられています。建てかえるのに3億円かかるそうです。部屋の広さは100㎡ぐらいです。『東海道中ひざくりげ』の本の中にも『麻吉』が出てきます。急な斜面に立っていて京都の清水寺と同じ造りだそうです。

見どころたくさん「麻吉旅館」

建物の中には、骨とう品のお皿や、昔のお弁当箱、小判などが展示されてます。イギリスの外交官の書道作品もあります。有名人のサイン色紙もたくさん飾られています。建物が高いところに建っているのは「人間は高いところにいると気分があがるから」と旅館のオーナーさんは言ってみえました。従業員の人たちは、お客さんを悪い気分にはさせないように気をつけているので、同じお客さんが何回も来てくれることが嬉しいそうです。おすすめのメニューは、伊勢志摩の魚介類を使った料理です。1年に1000人くらいのお客さんが来ます。大人気の旅館です。



伊勢の宝物がいっぱい「伊勢古市参宮街道資料館」

「伊勢古市参宮街道資料館（いせふるいちさんぐうかいどうしりょうかん）」は平成7年に建てられました。資料館の前の道が「古市参宮街道」なので、その道の名前から伊勢古市参宮街道資料館となりました。1日に20人から30人ぐらいの人が来ます。昔のお店のものや昔の写真などいろいろな資料があります。一番古いものは、江戸中期の写真です。一番大きい資料は「萬金丹（まんきんたん）」という薬屋の看板です。大きさはおよそ2メートルもあります。



工夫もいっぱい「伊勢古市参宮街道資料館」



一番人気の資料は、昔の楽器やおもちゃ、歌舞伎の衣装や食器などです。展示で工夫していることは、資料の飾り方だそうです。見てほしいものを中心に置くことで、展示で何を伝えたいかを表していると館長さんが話してくれました。テーマを決めた特別展示では、回ってもらう流れを特に考えているそうです。お客さんが展示ケースのガラスでけがをしないように気をつけて展示されています。昔の伊勢のくらしがよく分かります。ぜひ、資料館に来てみてください。



すてきな絵がある「修道小学校 校長室」

校長室の宝物の絵は「神都鳥瞰図（しんとちょうかんず）」といいます。1934年（昭和9年）の3月に描かれた絵です。「神都」とは伊勢のことで、「鳥瞰図」は鳥の目線になって描いた絵のことです。横152cm、たて91cmの大きな絵です。絵は、伊勢市出身の橋本鳴泉（はしもとめいせん）が描きました。この絵は、高級品の絹に描かれています。絵の中の赤い線は電車が通る道で車も走っています。飛行場や伊勢市駅や宇治山田駅、渡し船も描かれています。令和5年の秋には「島根県立古代出雲歴史博物館」の企画展に貸し出していました。どうして90年も昔に、鳥の目線になって描けたのか、なぜこの絵が校長室にあるのかはいまだに疑問です。

お菓子の国「はんけい」

「はんけい」は、修道小学校の近くにある駄菓子屋さんです。今年(2024年)でお店を始めてから125年です。最初のころは、駄菓子屋さんの「はんけい」ではなくて、ハンコ屋さんでした。ハンコ屋さんを始めた人が「けいぞう」という名前の人で、ハンコ屋さんの「ハン」と、けいぞうさんの「けい」を合わせて「はんけい」という名前になったそうです。はんけいには、約150種類のお菓子があります。はんけいが閉まっている日は、ヒカキン（日・火・金）です。ぜひ行ってみてください！！



五十鈴ヶ丘のパン屋さん「ぼうがいっぽん」

「ぼうがいっぽん」は、平成5年(1993年)に建てられたパン屋さんです。オーナーさんは「安心安全でおいしいパンを作ること」を心がけているそうです。お店の名前は、絵描き歌の「棒が1本あったとさ」の出だしの歌詞から取られているそうです。人気メニューは「おいしい食パン」です。そのまま食べてもトーストにしてもおいしいです。みなさんぜひ行ってみてくださいね。



スワディシュト (おいしい)「フルバリ」

「フルバリ」は、2007年(平成19年)4月に開店しました。フルバリの名前は、ヒンディー語でフルは『花』、バリは『花壇』という意味から『花園』をイメージしてつけたそうです。『みんなが来て楽しい』お店にしたいとオーナーさんが話してくれました。人気のメニューは、チーズナンとハニーナンです。おすすめのカレーは野菜カレーとチキンカレーです。

1日100人程度、お客さんが来るそうです。辛さを選ぶことができ、甘いカレーと辛いカレーが好みに合わせて選べます。皆さんもぜひ食べに行ってください。



600 年前からある「桜木地蔵」



「桜木地蔵（さくらぎじぞう）」は室町時代からありました。室町時代に、田んぼのはしにあった三体の地蔵を、桜の大樹の根元にお祀りしたのが最初といわれています。昔、この辺りには水田があり、勢田川の源流の一つでもあったそうです。そのころはよく効く薬はなく、お医者さんも少なく家族の人が病気になると神様や仏様に病気が治るようにお願いしていました。江戸時代には、山田奉行所の大岡忠相（おおおか ただすけ）がお参りして江戸町奉行に昇進したことから出世地蔵と呼ばれるようになりました。平成8年ごろ、桜木地蔵を訪れていた大相撲の力士が横綱に昇進したことから出世地蔵の名をさらに高めることになりました。今もたくさんの方がお参りに来ます。



ダンスの神様「長峯神社」

「長峰神社（ながみねじんじゃ）」で最初に目につくのは境内にある神様を呼ぶためにある鈴です。神社は1870年（明治3年）に建てられたそうです。名前の由来は長い峰に建てられていることからで、天鈿女命（あめのうずめのみこと）が祀られています。芸能の神様といわれているのは、天岩戸にとじこもった天照大神（あまてらすおおみかみ）が、天鈿女命の踊りに心がひかれて出てきたという言い伝えからです。芸能人が参拝することもあるそうです。



寿司代表「あつむら」

修道地区の寿司屋といったら「あつむら」。創業 12 年目です。名前の由来は、大将の小学生の時のあだ名があつむらだったからだそうです。あつむらは桜木町にあります。人気メニューは、お昼のランチです。工夫していることは、魚を冷やすときに冷蔵庫を使わないようにして、氷で冷やすことです。氷で冷やすと魚が硬くなりにくいそうです。食材は基本的に三重県産を使い、三重県にないものは全国各地からとりよせているそうです。皆さんもぜひ食べに行ってみてください。



歴史を教えてくれる「隠岡遺跡」

2000 年前にヤマト姫（倭姫命）が丘に隠れた（亡くなった）ことから隠岡という小字(地名)になりました。そこから取って「隠岡遺跡（かくれがおかいせき）」という名前になりました。遺跡とは昔の人が残した営為（えいい＝人のいとなみ）の跡です。伊勢神宮も同じ年に伊勢に鎮座（ちんざ）したそうです。代表的な出土品は弥生時代の土器です。土器のかけらが見つかったら、つなぎ合わせて復元し足りない所は石こうで補うそうです。訪問したときに、大工さんが行っている竪穴住居のわらを固定する体験をさせてもらいました。遺跡には予約（市・文化政策課担当）でしか行けませんが、興味がある人は行ってみてください。



昔からの味「コンパス」



伊勢市楠部町にあるお好み焼き屋さん「コンパス」。1984年（昭和59年）にできました。40年続いていて昔からの味を受け継いでいます。お好み焼きの種類は8種類あります。大阪風、広島風があります。人気の



お好み焼きは、普通のお好み焼き、イカ、ときどき広島風です。約100年前に建てられた家でお店をやっています。かき氷の種類はセンジ、みぞれ、宇治金時があります。金時はあんこという意味です。

おいしいものがいっぱい「シルクロード」

「シルクロード」が建てられたのは、およそ39年前の昭和60年（1985年）です。すごく古くから建てられていてびっくりしました。お店の名前の由来はオーナーの「きぬみさん」の名前だそうです。きぬは「シルク」、そして「私の生きる道」というところから「ロー



ード」でシルクロードという名前になったそうです。お客さんは若い人からお年寄りまで来るといことです。お店に入った瞬間においしそうな香りがして食欲をそそります。人気メニューは、エビオムライスとパスタセットです。自信があるメニューはプリン、エビオムライス、パスタだそうです。



遊ぼう！「フォークフォーク」

「フォークフォーク」は結婚式場なのに、カフェもホテルも公園もあります。ほかにバスケットボールやバレーボール、子どもが集まるように、迷路やテニスもできます。2017年にできました。オーナーさんは、「どの年代の人も置いてけぼりにしない、年代を超えて集まれる場所にしたい。災害時に避難所としても使えるようにしたい。」と言っていました。いろんな人が集まる、わくわくするところでした。



いろいろとおいしい「中山キッチン」



「中山キッチン」にはいろいろな野菜や果物、お菓子もあります。たくさんの方が来てもらえるようにさまざまな工夫がされています。おすすめの商品は、手作り米粉パンとバナナジュースです。とてもおいしそうでした。手作りパンには、チョコパンや小豆米粉パンなどがあります。1日に約40人はお客さんが来るということでした。中山キッチンは、約76年間も続いています。マークは、「楽しく料理ができる食材を売っています」という意味だそうです。



本わらび粉を 100%使用している「古仁屋」



昔からわらび餅が好きだった店長さんが、大人になって京都で勉強し「古仁屋（こびとや）」を開いたそうです。ここは昔、伊勢神宮参拝の街道だったので、昔の茶屋をイメージして古仁屋を建てたそうです。名前の由来は、わらび餅が古くから食べられているので「古」を入れ、「仁」は店長さんの名前の「じん」からとったそうです。わらびもちの原料は山菜のわらびです。わらびは春に採ってきて、ねかせてからたたくと、デンプンを作ることができます。ロゴはワラビーという動物とわらびをしっぽにしています。三種のわらび餅が人気メニューです。



神宮の文化施設「神宮徴古館」

「神宮徴古館（じんぐうちょうこかん）」は、1909 年（明治 42 年）にできました。春には桜、秋には紅葉が美しいです。この博物館は、金、銀、銅で作られた宝物（ほうもつ）が多く展示してあります。式年遷宮で解体された御饌殿（みけどの）の『実物』を復元したものがあります。高倉山古墳で出土した遺物も展示されています。中には、お木曳車の模型、宇治橋の模型、神宮の模型もあります。鯉木は内宮に 10 本、外宮には 9 本あると書いてあります。国の重要文化財など約 13,000 点収蔵しているそうです。



千姫が祀ってある「寂照寺」

「寂照寺（じゃくしょうじ）」は1677年に寂照知鑑（じゃくしょうちかん）が建てた古いお寺です。名前の由来は、その苗字を取って寂照寺なのだそうです。寂照寺は中之町にあります。1年に約1000人の参拝者が来るそうです。中には大きな仏壇があり、そこは黄金で作られていて極楽の世界を表しています。寂照寺の正面の道（今の中之町）が栄

えていた時、街は「一生に一度だけでも伊勢神宮に行きたい!!」という人でいっぱいだったそうです。そんな時代、お金がなくて食料も買えない人が出てきた時に、月僊上人（げっせんしょうにん）が立ち上がりました。月僊は、寂照寺の八代目の住職（じゅうしょく）で、絵を描き、その絵を売って食料が買えない人にお金を寄付していたそうです。寂照寺には徳川家康の位牌（いはい）や、徳川家康の孫の千姫の位牌、今までの住職の位牌も大事に祀（まつ）ってあります。寂照寺はとても歴史のある温かい雰囲気のお寺です。



みんな優しい 修道地区の方々

今回の調べ学習では、たくさんの人にお世話になりました。どの見学先でも優しく親切に話をいただきました。ありがとうございました。この優しい人たちこそ修道地区の宝物です。20年先もずっと温かい修道地区であるように大切にしていきたいです。



市制 20 周年記念



受け継がれる心、紡がれる文化

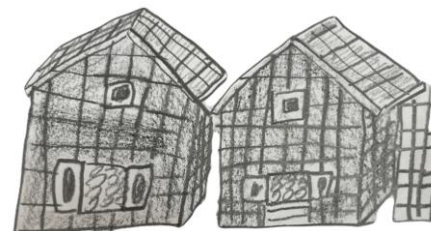


有緝小学校

令和 6 年度 3年生の取組

～時が刻む河崎のまちなみ、次の世代へつなぐ蔵の風景～

河崎のまちは、黒塗りの蔵が並んでいて、私たちの大好きなまちなみです。とおりを歩きながら町の特徴を調べてみました。



河崎のまちなみ

「伊勢の台所」と呼ばれた河崎。切妻屋根、妻入りの町家、黒塗りの蔵が並んでいてどこか懐かしさを感じる風景です。蔵などには説明の表示板も付いていて、昔からのまちなみを守っていきたいという思いがあちらこちらに感じられます。

本をふせたような屋根を「切妻屋根」といい、屋根が八の字のように見える面に入口がある家を「妻入り」の家というんだって。



妻入りの町家

切妻屋根には、河崎独特の「隅蓋」の瓦があちらこちらで見ることができるよ。火災から家を守る願いがこめられているそうだよ。



屋根瓦に、波・蛙・亀・船などの「隅蓋」

「世古」とよばれる細い道が、町と川をつないでいるよ。



世古

～道具が語る、昔の商人たちの思いとくらし～

わたしたちは、昔の生活道具がどのようにかわってきたのか、河崎商人館さんと和具屋さんに出かけ、くらしのへんかを調べました。

伊勢河崎商人館

商家の和室や暮らしを支えた商業の道具や記録が展示されています。

日本一古い紙のお札「山田羽書」が、伊勢の地で生まれたんだって。



飾り瓦やいろいろな「隅蓋」が展示されていておもしろいよ。

和具屋

300年近くなる陶器問屋。蔵の中には60メートル余りのトロッコのレールが残っており、奥まで荷物を運ぶのに使われていました。



社会科の教科書にあった昔のアイロンや古銭、教科書などの展示がたくさんあり、昔のくらしを想像できるよ。



古銭

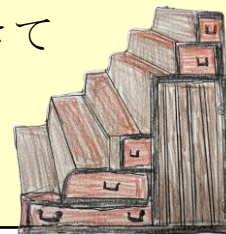
地球儀

3年生の感想から ～河崎商人館を訪ねて～

昔はトラックや自動車がなかったので、船でいろんな物を運んでいたそうです。船は勢田川を使って河崎のまちに荷物をおろしていたと聞いておどろきました。

屋根は鬼がわらの屋根で、横についているのは、隅蓋という物でした。隅蓋にはいろんな形があって、亀の形がかわいかったです。ほかにも冷蔵庫が木でできていたり、せんたくきがレバー式だったりで、びっくりしました。

箱かいだんは、引き出しにもなるので便利な階段です。



資料館の中に入ってみると、厚いとびらがあってコンクリートや土でできていました。もしも火事があってもとびらを閉めれば火が入ってこなくなるなんてよく考えてあるなあと思いました。

河崎商人館の建物は、何百年も姿を変えずに保っていてすごいなあと思いました。商人館は、みんなが昔の展示物を見て、歴史を学ぶところだと思っていたけど、建物や昔の物を長い間守りつづけている人たちがいるということも学びました。自分たちも将来まで、守っていききたいと思います。

～味噌と醤油の香りが紡ぐ、百年の職人技～

神久にある角屋味噌・醤油醸造蔵と、かどや民具館を訪ねました。大きな樽と蔵の中にひろがるお醤油の香りにおどろきました。すぐ隣にある民具館には、昔のものがたくさんあって、はじめて見る物がたくさんありました。



角屋味噌・醤油醸造蔵

約110年の伝統を持つ味噌・醤油醸造蔵。蔵の中では味噌と醤油の香りが漂い、創業当時から使い続けている大きな樽に、長い歴史を感じます。自然の微生物と職人さんたちの丁寧な手作業が、味噌と醤油をおいしく仕上げています。



樽は2メートルもあり、蔵に入っただとたん、おいしそうなおい。味噌ができるまで、2、3年もかかるそうだよ。

かどや民具館

船で神宮に参拝する船着場に「二軒茶屋餅」があり、400年にわたる大福帳や餅づくりの道具、生活雑貨などが展示され、昔の生活ぶりがわかります。



市制 20 周年記念



早修のすてき みつけたい！

伝えたいな！早修のいいところ



早修小学校

令和 6 年度 3年生の取組

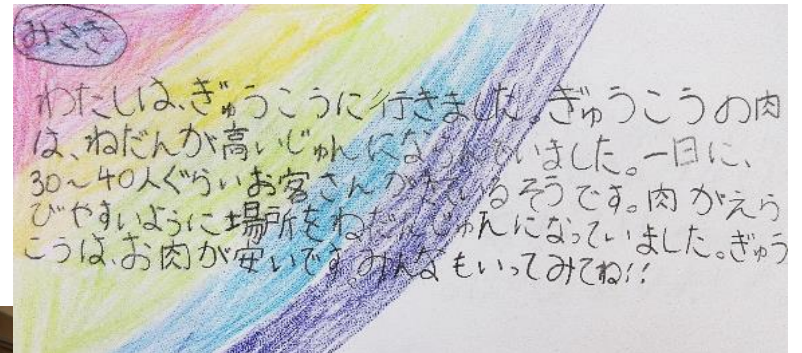




精肉店 (牛幸)



うらのはし商店街にある、精肉店「牛幸」です。明治40年からお店をしているそうです。お店には1日に30人～40人のお客さんが来るそうです。ショーケースの中は、料理によって使うお肉が種類ごとに分けられていました。見学している時も1人お客さんが来ました。



バーベキューソースやこんにゃくなど、お肉料理をつくるための食材も売っていました。



うらのはし商店街にある「小倉のぱんじゅう」へ見学に行きました。「子どもが買いに来やすいお店にしたい」という店長さんの思いのもと、1個 70 円でぱんじゅうを販売しています。

みんなは、ぱんじゅうを焼く様子を見るのが初めてだったようで、真剣にその様子を見ていました。

小倉のぱんじゅう

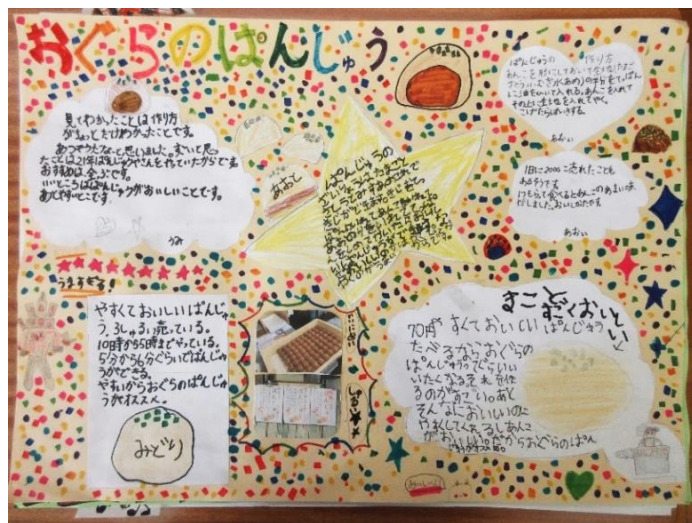
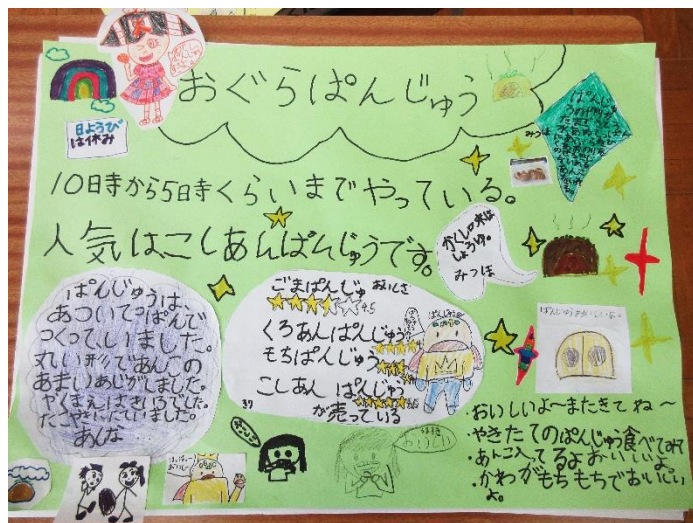


季節やその日の温度などで、作る生地や焼き加減を調整しています。



一回に 56 個焼くことができ、
1 日で 2000 個売れた日もあったそうです！！

お店の営業時間に来ることができない人でも買えるように、伊勢市内のスーパーにも小倉のぱんじゅうをおろしているそうです。



見学に行って
「わかったこと」
や「買いたくなる
ようなおすすめ情
報」また「店長さ
んの思い」などにつ
いて、絵とともに、
ポスターにまとめ
ました。



早修公園

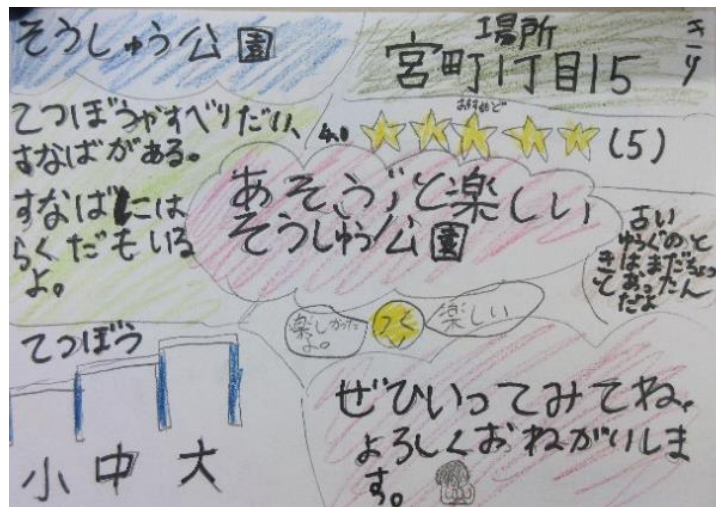
学校に一番近い早修公園です。学校から近いこともあり放課後の遊び場所となっています。

低学年が生活科で季節の生き物や草花の観察に訪れたり、奉仕活動で1年に1回掃除をしたりしています。

また、夏休みにはこの公園でラジオ体操もしています。見学した日は保育園の子どもたちも遊びに来ていたので、みんなでお話をしました。



公園にパンダの遊具があったので、子どもたちは「パンダ公園」の愛称でも呼んでいます。





2024年7月にオープンした、「ぎゅーとらうらのはし店」を見学しました。このぎゅーとらは、校区内ということもあり、毎週のように買い物で利用しているご家庭も多く、校区のみなさんにとって馴染みのある店舗です。

見学では普段見ることができない、バックヤードに入れていただき、在庫置き場や事務所、総菜作りや、休憩室などを見せていただきました。

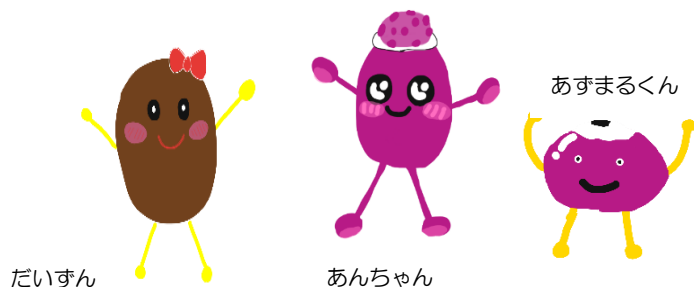
ぎゅーとら うらのはし店





新しくできた店舗はとても大きく、100人くらいが交替で働いています。
 お客さんに来てもらうためにさまざまな工夫をしていることや、お客さんが買いやすいお店を考えてお店づくりをしたことなど、店長さんから詳しくお話を聞かせてもらいました。
 みんなもよく利用するお店ですが、話を聞くと知らないことがたくさんありました。

市制 20 周年記念



中島小4年生オリジナルキャラクター



みんなに伝えたい中島のお店



中島小学校

令和 6 年度 4年生の取組

手作業を大切にして昔から引き継いできた『内藤製餡所』



伊勢市に2店舗しかないうちの1店舗である内藤さんの作っているあんこを見ました。さとう入りと入っていないもの、つぶあん、こしあん、季節限定のあんこもありました。



小豆の倉庫

小豆は北海道で秋にとれた小豆を使っています。北海道に実際に見学に行き、小豆を買い付けます。北海道の気候に合わせて18度の冷えた倉庫で小豆を保存しています。



ピカピカな釜

小豆をゆでる釜は、5表(300kg)と4表(240kg)ゆでられるものがありました。30年間使っているのにどの釜もととてもきれいです。なぜなら、釜の中を毎日きれいに掃除しているからです。あんこの製造が終わってから半日かけて掃除をしています。

気づいたこと

- ・なぜ掃除に半日もかけるのか。
 - ・手作業だから大変だと思った。
 - ・4時半に起きて仕事をしているのはすごい。
 - ・なぜ掃除にきびしいのか。
 - ・清潔感を大事にしていた。
-
- ・ずっと続いているお店だから
きっと大事にしていることがある。



大事にしていることは何かを話し合いました

手作業を大事にしている

- ・機械はお金がかかるから。
- ・手作業を大事にしてほしいから。
- ・昔から食べてきた人がいるから。
- ・こだわりがあるなら変えない方がいい。
- ・手作業でがんばっている味になるから。
- ・まごころが届くから。



掃除を大事にしている

- ・かまのさびが入るときけんだから。
 - ・毎日掃除しないとカビが生えるから。
 - ・カビが生えると食中毒が起こるから。
- 食中毒が起こると・・・
営業できない→生活できなくなる
お客さんの人気なくなる
昔から買っていた人も悲しむ

お客さんの望むものが届いて、喜んでもらえた時にやりがいを感じます。そのため、特に衛生面に気を付けてあんこ作りをしています。自分の作りたいものとお客さんのほしいものをこれからも作っていきます。あんこ屋は減っているので、これからも続けていきたいです。

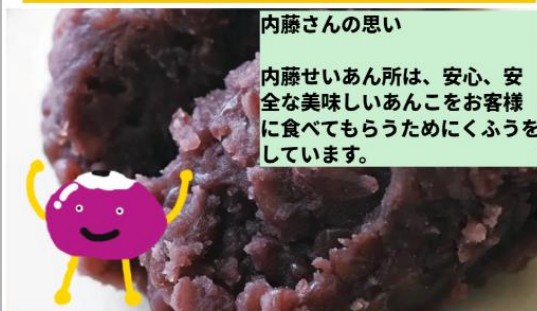


内藤さんの思い

内藤せいあん所



三重県伊勢市に二店舗しかないうちの一品舗が内藤せいあん所です。手作業で昔から引き継いできたお店です！



内藤さんの思い

内藤せいあん所は、安心、安全な美味しいあんこをお客様に食べてもらうためにくふうをしています。

わたしたちの思い

僕たちは内藤せいあん所を残していきたいと思っています。

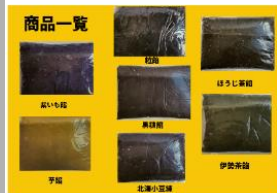
学習したことをポスターにまとめました



30年間使っているかま

半日そうじ

常に道具を綺麗に保ち、衛生管理に徹底した仕事場です。内藤せいあん所は、掃除に力を入れていて、せいけつなところであんこを作っています。



商品一覧

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

あんこ

内藤せいあん所クイズ!!

問題

内藤せいあん所は何代目まで続いているでしょう？

- ① 2代目 ② 3代目 ③ 4代目

11月に収穫された北海道の十勝産小豆を使っています。



ないとうせいあんじょ

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

文2

中島小

「さいみそ」を手作りしている『しげきや』🍷

「さいみそ」とは、古くから伊勢周辺地域で作られる、細かく刻んだ野菜とみそを合わせたものです。中島小学校の校区では「しげきや」というお店でさいみそが作られています。

しげきやさんに見学に行き、さいみその作り方を学びました。そこでさいみその材料である麴つき的大豆をいただき、さいみそ作りに挑戦しています。



材料 麴、大豆、醤油、砂糖、しょうが、にんじん、きゅうり

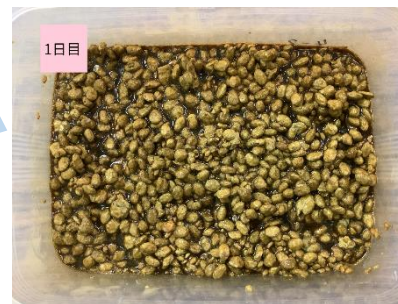
- ① 大豆に麴をつける。
- ② 醤油を入れて繰り返し混ぜ1か月発酵させる。
- ③ 砂糖を入れる
- ④ しょうが、にんじんは刻んでそのまま入れる。
きゅうりは塩漬けし細かく刻んで入れる。



段々と豆の色が変わってきました。醤油をすって大豆が大きくなり、やわらかくなりました。



大豆が全体的にしめるぐらい醤油入れ、かき混ぜる。常温で保管し蓋を完全に閉めないようにする。



地元で愛されている、さいみそが自分たちの校区で作られていることを知り、たくさんの人にさいみそについて伝えて、これからも大切にしていきたい郷土料理だと感じました。また2つの疑問が出てきました。

さいみその「さい」とはどういう意味なのか？

- ・野菜の「さい」・リサイクルの「さい」
- ・ふんさいの「さい」（野菜を刻むから）
- ・残菜の「さい」・関西の「さい」
- ・最高のみその「さい」

惣菜の「さい」？

さいみそはどこから伝わったの？

- ・伊勢にはある
- ・玉城にはある
- ・亀山にはなさそう

伊勢でできた？

11月ごろから作り始めて約1か月かけて12月からさいみそを販売しています。毎年、楽しみにしてくれているお客様のために、一生懸命作ることが大切にしています。

しげきやさんの思い

学習したことをポスターにまとめました

しげきやさんの学習 中島小

さいみそとは、野菜などが入っていて、生で食べるみそです。醤油の搾りかすを食べたのが始まりで、伊勢の他には、金山寺味噌という名前で全国で食べられているそうです。さいみそのさいは、諸説ありますが野菜の菜という説が有力です。

食べた感想

食感はきゅうりが入っていてパリパリしていました。生姜も入っていて、美味しかったです。ご飯に乗せるととても美味しかったです。しげきやさんのおすめは、焼いた豚肉にマヨのせて食べるとおいしいそうです。

さいみそ作りの仕事について

大変なこと
混ぜることが一番大変だそうです。しげきやさんは手作りでやるから体がボロボロになるそうです。

気を付けていること
衛生面等を気を付けながら美味しい味噌を作っています。

お客さんへの思い
お客さんに味噌を美味しく食べて欲しいから自ら手作りで味噌を作っています。

頑張っている理由
常連の人とか、お客さんがいっぱい来てくれるから手作業でも頑張っているそうです。

最初は豆つぶは、焼いた豚肉にマヨのせて食べるとおいしいそうです。

最初は豆つぶは、焼いた豚肉にマヨのせて食べるとおいしいそうです。

最初は豆つぶは、焼いた豚肉にマヨのせて食べるとおいしいそうです。

味噌の材料

一回に買う醤油の量は180L

①大豆に麹菌をまぶしたものと、醤油を樽に入れて手で混ぜる。

②3週間後に、砂糖を入れる。

③1週間

④1ヶ月

⑤2週間

⑥3週間

⑦完成

きゅうり680kg に対し塩150kg

⑧刻んだ生姜とにんじんと、塩漬のきゅうりを入れる。(きゅうりは塩抜き)

さいみその作り方

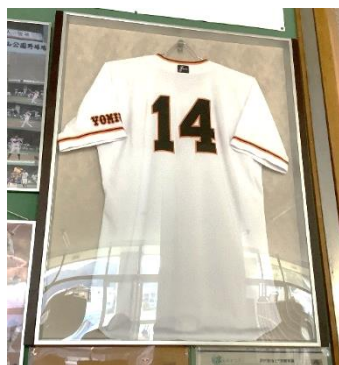
材料の画像

しげきや

市制 20 周年記念



わたしたちのまちの すてきなところを紹介しよう！



明倫小学校

令和 6 年度 3年生の取組

天然記念物蓮台寺柿

みなさん、蓮台寺柿を知っていますか？すごく甘くて美味しい柿です。蓮台寺柿は勢田町、藤里町、前山町、旭町など、伊勢市南部でさいばいされています。

蓮台寺柿のゆらい

今から 1200 年くらいまえに空海という人が、日本中をめぐっていました。伊勢にきた時にこの柿を食べて、気に入ったようです。それから、勢田町に 350 年前に蓮台寺がたてられました。そのときから、ここでさいばいされた柿を「蓮台寺柿」と呼ぶようになったようです。



摘果 & 収穫 & 渋抜き

柿を育てるためには、1 年中仕事をします。中でも摘果作業が大事です。摘果作業では、柿の花が咲いたときに、10 このうち 7 こを切り落としてしまいます。3 こに栄養を集めるために摘果作業をします。だから、落としてしまう柿の方が多いです。

収穫する時にはオレンジ色に変わって、実が大きくなります。



収かくは、9 月の終わりから 11 月までにします。収かくをする時は、何こも収かくしないといけないので、とても大変です。柿を見分けるコツは、赤い柿よりオレンジの柿を収かくすることです。

渋の抜き方は、とても大きい渋抜き用の穴に炭酸ガスと柿をたくさん入れて 1 日中ずっと開けないでおきます。そうすると、蓮台寺柿の渋が抜けます。どうして渋を抜くかと言うと、渋を抜かないと口の中がくっついてパサパサになるからです。

蓮台寺柿をそだてる仕事は 1 年中あります。そして市の天然記念物です。食べてみて、おいしかったです。渋抜き体験も楽しかったです。皆さんもぜひ蓮台寺柿を食べてみてください。



蓮台寺柿を作る

大西信孝さん

わたしたちは蓮台寺柿を育てる大西さんのすてきな所をしょうかいします。蓮台寺柿の学習をして、わたしたちは柿のことをいっぱい教えてもらったり、しゅうかくもさせてもらったりして、うれしかったです。蓮台寺柿を一生けんめい作っているのが分かりました。そんな柿を育てる大西さんがすごくすてきだと思ったので紹介します。



摘果作業を教えてくださいの大西さん

まず、柿の木を一生けん命に育てていることです。おいしい柿を育てるには、摘果作業や下草かり、しゅうかく作業のほかにも、一年中いろいろな作業をしなければいけません。200～230本もある柿の木を、奥さんと大西さんの2人でお世話しているそうです。

次に、おいしい蓮台寺柿を作れることです。わたしたちは蓮台寺柿のしゅうかく作業と試食をさせていただきました。試食の時に、大西さんの育てた柿を食べたら甘くて、すごくおいしかったです。あんなにもおいしい蓮台寺柿を作れる大西さんはすごくすてきだと思いました。



大西さんのお話を聞いて柿のしゅうかくをがんばってしているところです。



さらに、家の人のあとをついで蓮台寺柿を大事にしていることです。大西さんが蓮台寺柿を育てているのは、「今まで家の人が作っていて、蓮台寺柿をのこしていきたいから。」という理由です。天然記念物に指定されている蓮台寺柿を育てることを、家の人からひきついでががんばっていることが、すごくすてきです。わたしたちの地域にのこる蓮台寺柿は、大西さんのような農家の人達の手で、大切に育てられてきたんだなとわかりました。大西さんやがんばって蓮台寺柿を育てている農家の人達はすてきだと思いました。

伊勢神宮 外宮



毎年、伊勢神宮外宮をたくさんの方がお参りします。外宮についてわたしたちが調べたことをしようかいたします。



外宮でも、手水舎で手を洗うことができ、心が、スッキリしますよ。

心がスーッとするところ



外宮には、勾玉池があります。そこには、ほうのうぶ台があり、夕方になるときれいな夕日も見えます。季節によっては、花しょうぶがきれいに咲きます。

外宮には食の神様がいます。中を歩くと、緑にかこまれて、すがすがしいきもちになります。



外宮には、神馬（しんめ）という白い馬がいます。神馬という名前には、神様が乗る馬という意味があるそうです。会えるのは珍しいです。

このように、外宮にはたくさんお参りするところがあります。行くと、心がスーッとになってなんだか安心するような気持ちになります。また、パワーをもらったような気になります。

外宮参道

伊勢市駅前の外宮参道には、いろいろなお店があり、とてもにぎわっています。なぜ人気があるのかを紹介します。



外宮参道は、来る人たちにとって優しさがある場所です。それは、外宮参道の通り道にはトイレやバリアフリーの施設があります。また、伊勢市駅で障がいのある人のために無料で車いすを貸しています。

外宮参道のシンボリックな役割を果たしている「伊勢の宿 山田館」です。



外宮参道の通り道は伊勢市駅から来たお客さんが、お買い物をしたり、食べ歩きをしたりできます。お客さんに、いい場所だと思います。



伊勢市駅と伊勢神宮（外宮）とをつなぐ外宮参道を歩いていると、レトロな木造三層楼の古い建物が見えてきます。外宮参道は、宿泊施設が多かったです。戦争で多くの泊まる場所が焼けてしまいましたが、山田館は残ったようです。そのような歴史のある建物を残そうと努力をした人たちのおかげで、外宮参道はレトロな町になっています。観光していると楽しい場所です。

このように、伊勢市駅前には、昔からある建物やたくさんの方がいます。皆さんもぜひ伊勢市駅前の外宮参道を通ってみてください。

たよれる市役所



わたしたちは、伊勢市役所を見学して、すごいな、おどろいたなと思ったことを3つ紹介します。

1つ目は、市民の生活にひつような仕事がたくさんあることにおどろきました。市役所には、いろいろなまど口がありました。1階の入口近くには「こせき」というまど口があります。そこは、結婚したり、子どもを産んだり、亡くなったりするととどけを出しに行く所です。また、広ほう公ちょう課は、月に2回「広ほう いせ」というお知らせを作っています。ほかにも、税金を集める課など、いろいろな課やまど口があり、市にはいろんな仕事があることがわかりました。

2つ目は、困っている人が相談できるところがすてきです。例えば、かんきょう生活課では、かんきょう対さくや犬やねこの注射をすすめているそうです。ペットの相談にのることもあるそうです。また、子育て支えんやお年よりの生活などについて相談できるまど口もあるそうです。こんなふうに困っている人を助けてくれるのが親切だと思いました。

伊勢市議会

議場を見て、市議会って大切なところなんだなと思いました。



市役所に見学に行って、市役所がみんなのためにがんばっていることを知ることができて良かったです。

3つ目は、議会などで、たくさんの人が話し合って市のことを決めていることです。市役所の2階には、市長さんがはたらく部屋やひしょ課があります。市長さんは、ここでお仕事をしたり、お客さんに会ったりするほかに、市議会に出て伊勢市のことを話し合うそうです。議場に、わたしたちも入れてもらいました。前で話す人のことがよく見えるように席がならんでいました。たくさんの人が意見を出し合って決めているのがいいなと思いました。

市役所の人が一生けん命はたらいて、わたしたちの生活を支えてくれていることがわかりました。それに、伊勢市の人たちを大切にしてくれていると思いました。

楽しく安心して買えるお店 ぎゅーとらラブリー藤里店



ぎゅーとらさんには、親切な店員さんがいて、お客さんのことや安全を考えてくれています。そんなぎゅーとらさんのことを紹介します。

まず、売り場で働く人がすごいです。売り場には、賞味期限や商品の数を確認している人がいます。新しい美味しい物を売るためです。それから、野菜や果物が選びやすく並んでいました。「商品の顔がおもてを向くように置くんです。」とお店の人が話してくれました。すごく見やすくて、選びやすい売り場だと思いました。

野菜はおもての顔をむけています。



このポップを見て、すぐにお客さんが買っていました。

こんな大きなシイラを切り身にします。



次に、お店の奥で働いている人がすてきです。それは、おそうざいを作ったり、お肉やお魚をパックづめしたりする人です。ここで働く人達は、お客さんが安心して食べれるように、工夫してくれています。例えば、調理中に髪の毛などが入らないように調理する時に特別な帽子をつけています。また、大きな魚をみんなが食べやすい大きさに切って売っています。



コロッケが一番人気だそうです。



最後に、困っているお客さんを助けてくれる人がいて、やさしいです。お店の中にある「サービスカウンター」では、落とし物をあずかってくれたり、お客さんの相談にのってくれたりします。また、「ぎゅーとら行こカー」というサービスがあって、免許を返納した人や身体が不自由な人、ぎゅーとらに買い物に行くのが大変な人などの送り迎えをしてくれます。

ぎゅーとら行こカー



こんなふうにはぎゅーとらさんは、すごい人やすてきな人がいる、みんなにやさしいお店です。見学に行った時に店長さんが、「みんなに楽しく安心して買物をしてほしいです。」と言っていました。だから、お客さん思いの店員さんがいっぱいなんだと思います。

ぎゅーとら地域貢献

ぎゅーとらさんは、「ふれあい」「地域貢献」のスーパーマーケットです。買い物以外にも、伊勢のわたしたちにも役に立つお仕事をしています。商品を売ることに以外にもしていることがあるので、皆さんにも紹介します。

まず、お店の中には「おおきんな」というコーナーがあります。おおきんなでは地域で育った野菜や果物が売られています。そして地域の人に売っています。



次に、ぎゅーとらには、リサイクルボックスがあります。買い物ついでにリサイクルができます。しかも、リサイクルしたものを地域に貢献しているそうです。



リサイクルと駐車場のマーク

＜リサイクルの秘密＞
プラスチック

➡発電燃料に

段ボール

➡新たな段ボールに

発砲スチロール

➡プラスチック製品に



さらに、ぎゅーとらには、地域貢献の人への優しさがあふれています。たとえば、駐車場には高齢者や体が不自由な人や妊婦さんが入り口から近いところに車をとめられるようにしています。その人たちが優先的にとめられる様に、車椅子のマークがあります。

このようにぎゅーとらでは心優しいお店の人が、地域の人が暮らしやすくするために、働いています。他にも、お店には色々な工夫があります。皆さんもぎゅーとらに行って色々な工夫を見つけながら買い物をしてみてください。



すてきがいっぱい 宇治山田駅

伊勢うどんや蓮台寺柿も
紹介されています。



駅の1階にはピアノ
が設置されてい
ます。

地図の画面をタ
ッチすると、お店
の情報を見るこ
とができます。



駅前にはバス停もあり、色々なところへ
いくことができます。時刻表を見ればバ
スがいつ出発するかわかります。



宇治山田駅のすてきなところを紹介します。

まず、建物がすてきです。レトロな建物で、3階にホームがあるので、外からでも電車がとまっている様子が見られます。

次に、お客さんが観光しやすいような工夫があるところがすてきです。コインロッカーや地図、観光案内のパネルなどがあります。はじめて伊勢に来た人でも、街の様子がわかるようになっています。それに、コインロッカーがあるので、重い荷物を持たなくて済みます。お客さんのことを考えているなと思いました。駅の前にはタクシーが何台かとまっていて、遠いところに行く時は、乗っていただけます。

最後に、伊勢の良いところを紹介されているところがすてきです。駅の中に、伊勢の名物や有名なものがかざられています。どれもみなさんがよく知っているものですので、一度見てみてください。



明倫小学校出身の伝説の投手

沢村栄治の生まれた街

校区探検で宇治山田駅に行ったときに、駅前にあったのが伝説の名投手沢村栄治さんの銅像でした。そこから、本を読んだりインターネットで調べたりしました。沢村栄治投手について、わたしたちがすごいと思ったところ3つを紹介します。

沢村栄治さんは、三重県伊勢市出身の伝説のピッチャーです。明倫小学校の出身で、子どものころから野球が好きだったそうです。なぜ伝説なのかというと、沢村投手が、時速 160km のストレートを武器に活躍したからです。しかし、戦争にいくことになり、27 歳で亡くなりました。



3 回も戦争に行き、とうとう戦争で亡くなったのがさみしいです。

まずすごいと思うのは、甲子園への出場です。沢村投手は京都商業学校に入ると甲子園に出場し、速い球を投げてたくさんの三振をとりました。次にすごいところは、メジャーリーガーとの対決です。1934 年に静岡市の草薙球場で行われた「日米野球」で、たった 17 歳の沢村投手が、当時最強のメジャーリーガーだったベーブ・ルースやルー・ゲーリックなどから三振をうばいました。この活躍は日本中に知れわたり、その後、出来たばかりの「しよくぎょう野球（プロ野球）」チームに入り、エースになります。さらにすごいのは、ノーヒットノーランを達成したことです。1936 年に日本プロ野球初のノーヒットノーランを達成したのがすごかったです。沢村投手は、史上最多タイの 3 回のノーヒットノーランを達成しました。



明倫小学校には沢村栄治さんについての展示があります。

ユニフォーム



私たちには、こんなすごい先輩がいたんだなと思いました。宇治山田駅には栄治さんの銅像があります。また、駅のまわりには生まれた家の跡や石碑などがあります。明倫商店街には沢村栄治さんの「人に負けるな どんな仕事をしてでも勝て しかし堂々とだ」という言葉が書かれた「全力石」もあります。ぜひ見に来てください。

みんなの郵便局



郵便局の人たちは、にこにこしながら郵便物を届けてくれます。伊勢市には、大事な人達です。



正かくに速く地域の人たちに届ける工夫があります。くぶん機でお客様の住所などを読み取り、ちいきごとに分けます。

バイクの練習をしてから届けに行きます。郵便局を出発する時間は9時30分から10時です。そうやって、郵便局の人は、正かくに安全に届けています。

郵便局では、ちょ金ができます。自分の将来のためにお金をあずけることができます。郵便局にちょ金するといいことあるよ。将来のために、コツコツちょ金しよう。

見守りサービス

郵便局の人たちは地域の人たちを助けていることがあります。それは見守りサービスと言う制度です。見守りサービスは、伊勢に住んでいる高齢者が、安心して暮らせるために郵便局の方がほうもんすることです。

このように郵便局の人たちは、郵便物を送ったり、お金をあずかってくれたり、地域の人の見守りをしたりしています。私たちの生活を支えてくれています。



市制 20 周年記念



高柳の夜店・伊勢和紙

～20年後も残したいもの～

厚生小学校

令和 6 年度 4年生の取組



「高柳の夜店」

令和6年で、第105回目となる伊勢の夏の風物詩「高柳商店街の夜店」は、大正時代の夜店に始まったとされています。伊勢の人なら合言葉のように知っている「1（いち）・6（ろく）・3（さん）・8（ぱち）」もともとの開催日は、3と8の付く日だけだったそうです。その後、1と6の付く日や土曜日も加えられたという貴重なお話を高柳商店街振興組合の奥田さんから教えていただきました。新型コロナウイルス感染症が流行していた数年間は開催が中止されていた夜店でしたが、令和5年には再開されて、待ち望んでいた多くの人々が集いました。

夜店に出る屋台の食べ物（やきそば、焼きとうもろこし、かき氷、チョコバナナ等）は、昔も今も子どもたちからの人気が高く、時代をこえて親しまれています。



～新聞を作ろう～

奥田さんのお話やホームページで調べたことを取りまとめ、複数のチームに分かれて新聞作りをしました。編集後記には「夜店についてもっと調べたい。」「知らないことがたくさんあり、今回の学習をしてよかった。」「いつまでも大好きな夜店が続きますように。」等の感想が多く記されていました。今後、夜店にかかわる人たちの高齢化や屋台数の減少等、さまざまな課題があることも聞かせていただきました。伊勢の夏の風物詩として人々から愛される「高柳の夜店」には、たくさんの人の思いがこめられていることがわかりました。



児童の新聞より



「伊勢和紙」

厚生小学校の西門から徒歩5分という場所に、1899年（明治32年）に創立された伊勢和紙を製造する会社があります。伊勢和紙は、伊勢の神宮の御神札（おふだ）を全国家庭に頒布するため、明治初期よりこの地で作られるようになりました。

工場では昔ながらの手すきによる製造だけで

なく、機械すきによる和紙の製造も行われています。和紙の原材料はコウゾ、ミツマタ、ガンピなどの植物の樹皮です。表皮の内側にあるじんぴから繊維を取り出し、さまざまな工程を経て美しい和紙に仕上げていきます。

見学では、職人さんによる熟練の手すき工程を間近で見ることができました。

また、この工場で製造される和紙の種類はさまざまで、伝統的な和紙の他にも写真印刷用のものやインクジェットプリンタ対応のものまであります。



手すきによる
伊勢和紙の
製造のようす



敷地内に生えている
ミツマタ

今回の学習の一環として、図工の木版画を伊勢和紙に刷って仕上げました。

伊勢和紙の
みりよくが
伝わるとい
いな！



学習の最後に、まとめとして新聞作りを行いました。わたしたちの校区に、こんなにすばらしい伝統産業があることを知って、おどろきました。同時に誇らしい気持ちにもなりました。



児童が作成した新聞の一部より

市制 20 周年記念



佐八のみりよく



佐八小学校

令和 6 年度 3・4年生の取組

1 佐八かんこ踊り

(1) かんこ踊りとは

佐八かんこ踊りは、700 年前から精霊踊り、豊年踊りとして踊り続けられています。たき火を中心に輪を作りおどる勇ましい踊りです。踊り子、音頭、世話人、町中の人々が、1 つになって祭りを作りあげてきました。踊り子は、頭にシャグマ、花笠をかぶり、腰にシモタ、カンコをつけます。

まい晩練習をくりかえし、8 月 15 日・16 日の本番をむかえます。

(2) かんこ踊りのきまり

かんこ踊りは小学 4 年生から 42 歳までの男性が踊ったり鞆鼓(かっこ)を叩いたりします。新盆の供養のための踊りで、1 回の

踊りは 30～40 分あまりも続きます。公民館で火を中心に踊ります。

《踊り子の道具》



(3) 体験者に聞いた話

① やりがい

無形文化財に指定された、かんこ踊りを長男だったから踊ることができたことにやりがいを感じました。

② 楽しかったこと

ふだん話さない地域の人と交流できる場所は楽しかったです。

③ 辛かったこと

夏に火の周りで踊るのでとても暑かったです。シャグマは重く、落ちないようにきつくあごひもをしばって痛くなりました。バランスをとるのも難しかったです。

④ これからの人に伝えたいこと

参加することはもちろん、道具も受け継いでほしい。

(4) 子どもたちの感想

☆地いきの行事を知ること、自分が住んでいる場所を好きになれた。

☆かんこ踊りのことを深く知れてよかった。

☆重い道具をかぶって長い時間踊れていたことがすごいと思いました。

☆文化を受けつぐことは、文化に根付いている地いきのつながりも守っていけるとだと思った。



2 佐八小校区の神社

佐八小学校の近くにはたくさん神社があります。今回は3つの神社を調べました。

(1) 佐八浅間神社

社には2体の石仏が置かれている伊勢市でもめずらしい神社です。



(2) 川原神社



祭神は宮川の守ご神と伝えられる、つくよみそんみたます。

この場所は昔、宮川の

川原で、さわ地(現在の地名を佐八という)であったことが考えられています。

(3) 宮本神社

参道の石段を上り静かな木立の中を進み行くと拝殿(はいでん)が見えます。おごそかで冷気を感じさせる社で、天忍穗海人命(アメノオシホノアマノミコト)を祭神とする佐八町の守り神です。鮎を媒介(ばいかい)として神宮と関りの深い社であったことが考えられています。今も祭礼には鮎のなれ鮎を供える習慣があります。



(4) 佐八小地区にある他の神社

○大倉八柱神社 ○園相神社

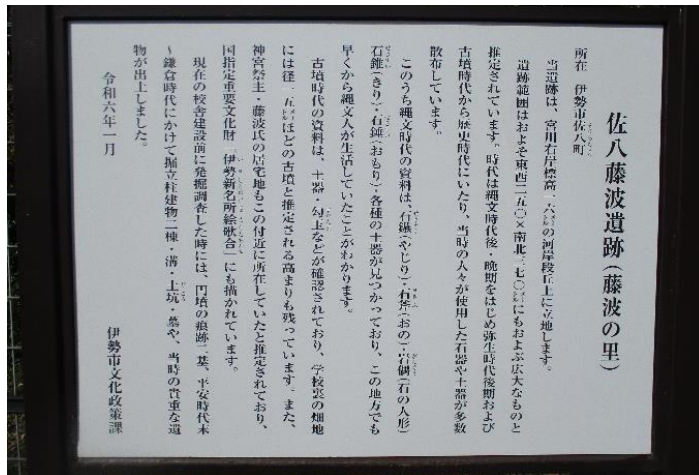
○津村八柱神社 ○津島神社

3 佐八藤波遺跡

(1) 藤波遺跡について

遺跡の広さは、東西 250m、南北 370m の広さがあります。藤波遺跡からは、多くの石器や土器が見つかります。この石器や土器は縄文時代に使われていたものなので、佐八小学校の裏には縄文時代の人々が住んでいました。

《学校付近にある看板》



(2) 文化政策課の人の話より

藤波遺跡は縄文後期から晩期にかけて栄えたムラの遺跡で、昔使われていた道具の土器や石器が発見されています。特に、矢の先につける石の矢じりが多く見つかりました。いろいろな道具を使って、どんぐりや動物の肉を食べていたそうです。

(3) 子どもたちの感想

☆じっさいの道具を見せてもらいました。

矢の先がとてもとがっていました。

☆昔の人はいろいろなものを手で作っていたことがわかりました。

☆石をけずって、矢を作ったり、おのを作ったりして大変そうだと思いました。

☆土器にこげたあとがあったので、火を使っていたと思いました。

4 佐八地区の田んぼ

(1) 小学校のまわりの田んぼ

毎年、地域の農家さんにお手伝いしていただき、田植えや稲刈りの体験をしています。佐八小学校の周りには、たくさんの田があり、季節によって変化する様子を見ながら登校しています。



(2) 農家さんの話

佐八では主にコシヒカリを作っています。水は近くの池（笹原池）から引いています。コシヒカリが佐八の気候に合っていると思います。

米作りで大変なことはたくさんありますが、特に大変な時期は、田植えと稲刈り、そして、夏の草刈りです。おいしいお米を多くの人に食べてもらえるようにがんばっています。

(3) 子どもたちの感想

☆佐八で作られているお米はコシヒカリが

多いと知ることができました。

☆夏は特に大変だと分かりました。

☆感謝してお米を食べたいです。

5 玉田山

学校の近くには玉田山という丸い山があります。玉田山は、玉手山、円(つぶら)山とも呼ばれています。標高は82.2mで、山頂には常緑のもちの木が1本あります。また、山頂には古墳があり、直径10メートル高さ1.5メートルの石の部屋が見えます。

学校の周りは自然豊かで、たくさんの山がありますが、玉田山はすぐに見つけることができます。

佐八小学校の校歌2番には、「その名もゆかし 玉田山 栄えある歴史 みそなわし」と歌われています。

春の遠足では、玉田山に登り山頂で校歌を歌いました。

<佐八保育園の横から登ることができます>



<佐八小学校3階から見える玉田山>

市制20周年記念



～伊勢市の天然記念物～

守っていこう蓮台寺柿

知ることが守っていくことにつながる



宮山小学校

令和6年度 3年生の取組

1. 生産者さんを訪ねて

宮山小学校3年生の総合の学習で、伊勢市の天然記念物に指定されている蓮台寺柿について調べることになりました。5月9日（木）宮山小学校校区の蓮台寺柿の生産者の相可愛子さんを訪ねて畑の見学をさせてもらったあと、いろいろな質問をしました。



Q:摘果とはどういう仕事ですか？

A:花が咲いたあと、一つの枝に一個の実がなるように葉の形と実のなる向きで残す果実を決め、あとは落としてしまいます。

Q:今はどんな仕事をしていますか？

A:摘果、消毒、除草という作業をしています。



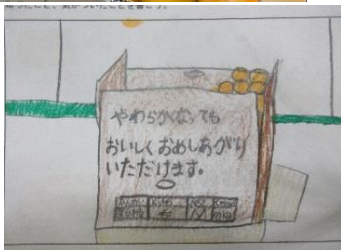
相可愛子さんのお話

私は蓮台寺柿に携わって約50年になります。毎年よい柿を作ろうと思い勉強の日々です。温暖化によって栽培が厳しくなってきました。夏の暑い時期に行う薬剤散布が大変な仕事です。

今現在、柿農家の一番の問題は、高齢化と後継者についてです。生産者のほとんどが70歳以上になってきて、後継者もおらず栽培をやめざるを得なくなってきた生産者が増え、柿の出荷量も年々減ってきています。今年、この地域で一番多く栽培している農家がやめました。せっかく天然記念物に指定されている柿を守るためにみんなで知恵を出し合う必要があると感じています。

2. 選果場見学

10月10日(木)に選果場を見学に行きました。蓮台寺柿の選果場は柿の収穫の時期だけ期間限定で稼働しています。収穫した柿が集まってくるのを待って、午後3時から選果場が開きます。柿農家の方が軽トラックでどんとどんと柿を運び込み、その柿を大きさや等級に分けて箱詰めして出荷していました。



- ・ぺったんこになった段ボールを機械で広げて大きなホッチキスでとめて箱を作っていました。下にすべり台みたいに流れて行ってびっくりしました。農家の人が運んできた柿をローラーに置いて、次に人の目でいろんな種類に分けていました。10キロ以上だったらローラーからはじかれることがびっくりしました。箱に入れてのりを機械でつけてとじて最後にスタンプを押して完成でした。
- ・箱を自動で作ったり、赤秀や青秀の種類別の箱につめていました。1つの箱に10キロずつ正確に入れていたのにおどろきました。
- ・柿を大きさに分けて段ボールに入れていました。柿をきれいにに入れて、箱にはんこを押していました。

児童のふりかえりより

3. 蓮台寺柿の収穫

10月17日（木）に蓮台寺柿の収穫に行きました。今年は酷暑で実が色づくのが遅れたことと、カメムシの被害で実がたくさん腐って落ちてしまったことを聞きました。そんな状況の中でも大きく立派に育った柿を収穫する体験をさせていただきました。



網で柿のヘタの部分を
ひねって収穫します。



収穫した柿は、二酸化炭素を注入したタンクに24時間入れます。そうすることで渋が抜け、甘くておいしい蓮台寺柿になります。

4. ひなたやけ作り

蓮台寺柿を使った干し柿は「ひなたやけ」とよばれます。相可さんたちのグループが試行錯誤をして考案した、国土庁官賞受賞商品です。相可さんに来ていただき3年生全員で「ひなたやけ」作りに挑戦しました。出来上がった「ひなたやけ」をおうちの人や先生たちにも試食してもらい「おいしかった」という嬉しい感想をたくさんいただきました。



渋柿の皮をむき、4個から6個のくし形に切って「すのこ」の上に並べ干していました。



相可さんの家の乾燥機に3日ほど入れてもらってから天日に干しました。毎日揉み続けると中から糖分が白い粉になって出てきます。

国語の説明文作りでも「ひなたやけ」の作り方を文章にしました。

児童のふりかえりより

今日は相可さんたちとひなたやけを作りました。作り方は、まず皮をむきます。その前にヘタの部分をちぎることにびっくりしました。皮をピーラーでむきました。ピーラーを使うのは、初めてでした。皮をむいたら、うすいオレンジ色っぽい黄色になりました。しんを取る型にはめると、きれいに取り除けました。ひなたやけ作りは楽しかったです。

市制 20 周年記念



は ま ☆ ス タ



浜郷小学校

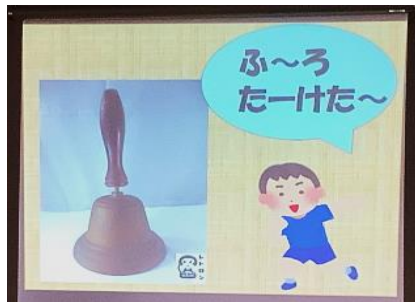
令和 6 年度 3年生の取組

はま☆スタ（黒瀬教育集会所と連携した人権学習）

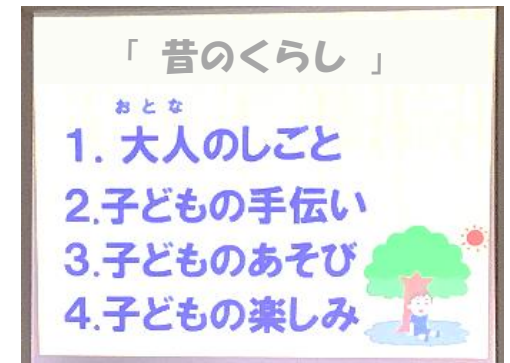
浜郷小学校では、地域人権学習として「はま☆スタ」が行われています。「はま☆スタ」は、「浜郷」の「はま」に「スタディ」「スタート」「スター」という3つの意味を表す「スタ」、
「浜郷校区のことを、一人ひとりが輝いて、学習を始めよう！」という思いが名前の由来です。地域の方々やまちづくり協議会の方々などの協力を得て、浜郷小学校の子どもたちは地域学習を継続してきました。当初から少しずつ内容が変わってきていますが、この学習が本校の学びに定着しています。そのことで、「はま☆スタ」の学習が、地域と学校とを深くつなげています。

3年生の活動

「昔の浜郷～身近な地域から学ぼう～」というテーマで、今の浜郷と比べながら昔の浜郷地区の様子を学習しました。その中の「昔の暮らし」で、大人の仕事・子どもの手伝い・子どもの遊び・子どもの楽しみについても学びました。



子どもたちの手伝いの1つにお風呂がわいたことを知らせるものがありました。当時の地域には共同浴場があり、お風呂がわくと子どもたちが「風呂たけた～」と行って鐘を鳴らしながら町をまわって知らせていたそうです。また昔の学校や公園などの写真も見ました。



【3年生の感想】今と全然ちがう様子でした。学校のまわりも田んぼや畑が多くてびっくりしました。黒瀬子ども公園も今ある遊具がほとんどなかったなので、どうやって遊んだのだろうと思いました。昔の生活は不便で大変だったけど、子どもも大人と協力して生活していたんだなと思いました。浜郷では、「くらしを通して人とつながる」ことを願い、「人と人が支え合う」、「おたがいに協力する」、「みんなで楽しむ」ことを大切にしていきたいと思います。

他の学年の活動

1年生

これから6年間「はま☆スタ」の学習があることと「黒瀬教育集会所を知ろう」というテーマで、放課後の活動として教育集会所で行われている「レッツ！」の活動を知り、親しみをもつことができました。

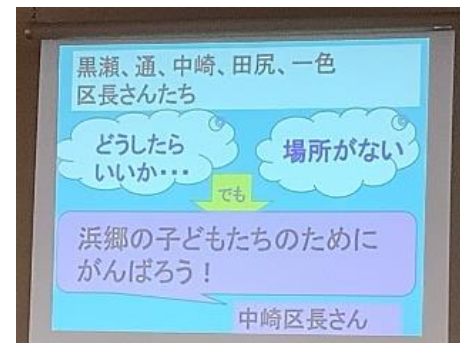


2年生

「地域にある施設を知ろう」というテーマで教育集会所近辺の施設を探検し、地区集会所・黒瀬児童センター・黒瀬市民館を訪れ、施設の特徴や役割を知りました。市民館では橋本館長から2年生にも分かりやすい人権の話を聞かせていただきました。

4年生

第1回は「地域の発展につくした人々」というテーマで、小学校のプール建設に向けた地域の方たちの思いを知りました。プールが造られる前は、近くの学校まで歩いていたことを知り、プールを大切に使っていこうとする気持ちをもてました。第2回は「昔の浜五郷を知ろう」というテーマで、それぞれの村の仕事・文化・つながりを学びました。



5年生

4年生で学んだことのひとつ「伊勢表草履」の工程をもとにした「藁草履作り」にチャレンジしました。地域の方に提供していただいた藁を使い、地域の人たちにも協力してもらい「鼻緒づくり」「藁たたき・藁そうじ」と、藁草履を作るまで、を体験しました。

6年生

第1回は「伊勢・浜郷を深く知ろう」というテーマで、伊勢と浜郷の歴史を振り返り、浜郷校区について学びました。第2回は「地域の施設や役割を知ろう」というテーマで、地域の環境改善への思いを知りました。第3回は「はま☆スタをふりかえる」というテーマで、これまでの「はま☆スタ」から、印象に残ったことや学んだことを振り返り、自分たちの地域の良さを感じることができました。

市制 20 周年記念



伝統野菜を 未来へ残そう



～伊勢の幻の野菜朝熊小菜～



四郷小学校

令和 6 年度 3年生の取組

残していきたい伝統野菜

四郷地区にある朝熊町では、伝統野菜の「朝熊小菜」が育てられています。種や苗は市販されていないため、前年の苗から種を採り、次年へ引き継いでいくことでしか育てることができない野菜です。

3年生は、そんな貴重な野菜の栽培を通じて、地域の伝統に興味を持ち、受け継いでいくことの大切さを知る活動をしています。



～朝熊小菜を栽培している人の話～

伊勢市に住んでいる人なら、スーパーマーケットなどで目にしたことがあるかもしれません。朝熊小菜は古くから栽培されてきたアブラナ的一种です。朝熊山の麓で育てられ、厳しい寒さと霜が朝熊小菜を甘くするポイントです。他の地域で栽培しても同じ味にはならない「伊勢の幻の野菜」と呼ばれています。

子どもたちの声

家ではよく食べるけど、貴重な野菜だなんて知らなかった。

伝統を守るために、地域の人が活躍してくれているんだな。

来年の3年生にも元気な種を残してあげられるように育てたいな。



＜伝統を受け継いでいくために＞

朝熊小菜を栽培している人は年々減少しています。このすばらしい伝統野菜を後輩たちに残しておくために、種を少しずつ持ち帰って育てる活動をしています。地域の大人の方から伝統を受け継いだので、次は子どもから地域全体へ活動を発信していきます。

市制 20 周年記念



かなえの里 東豊浜

～鼎の地からつないでいこう～



豊浜東小学校

令和 6 年度 4・5年生の取組

(1) 地域の伝統行事

① 盆祭礼のかんこ踊り

東豊浜町の三地区ではお盆の時期にかんこ踊りを行います。「かんこ」とは小さな太鼓のことで、昔中国から伝わった鞆鼓(かっこ)という楽器の名前がなまって「かんこ」と呼ばれるようになったそうです。いつの時代から続くのかわかりませんが、少なくとも百年以上は続いていると地域の方々は言います。地域に根ざした行事は、令和の世になっても脈々と受け継がれ、親や祖先を思う心を育てています。



←土路のかんこ

西条のかんこ→

どちらも中に小豆や大豆が入っていて、振るとシャカシャカと音がします



〈西条〉

昔は青年団が参加する行事でしたが、今は人口が減ったため小3から中3までの子どもも参加するようになりました。



〈土路〉

昔は青年団でかんこを打っていましたが、地域の人口が減り、今では小4から中3までの子どもが打ち手となっています。また、土路地区では隣村のお寺の和尚である堅漢坊(けんかんぼう)の功績をたたえて、永代念仏を打って供養もしています。



〈榎原〉

榎原地区では町民会館の広場に集まってかんこを打っています。以前は青年団が行っていましたが、地域の人口が減ったこともあり、青年団がなくなったため平成13年頃より榎原町会主催となりました。



西条・土路町会の方のお話

どの地域も保存会を作るなどして、文化を継承しようとしています。後継者不足が課題になっています。

②地区に伝わる伝統行事

・恵比寿講（えべっさん）



土路地区では恵比寿神（エビスガミ）をまつり、一年の無事を感謝し、五穀豊穰、大漁や商売繁盛をお祈りする行事があります。11月20日、土路の町会さんに土路地区の小学生が集まり、そこから地区内の各家庭をまわって玄関先で

えべっさんの おいおいに
きんぎんまいこんで
ふくのかみは はいりこめ
びんぼうがみは でーてけ でーてけ
おじさん おばさん
おかねいただかしておくんない

と歌うとお小遣いをもらえます。土路地区の子どもたちは毎年この行事を楽しみにしています。

・富士講

始まった年代は不明ですが、江戸末期か明治初期には東豊浜、檜原、磯地区で行われていたようです。近年でも申年に地域の青少年が富士参り（富士登山）をします（平成16年に実施）。出発当日は浅間様境内で諸行事を済ませ、高羽江神社、外宮、内宮の参拝をすませ、道中歌に合わせて富士踊りや道中踊りをしつつ、富士参り（富士登山）をします。留守を預かる女性たちも、道中の無事を祈って、出発の日から帰るまで踊り明かします。

世話役などの後継者がいないことが課題で、平成28年は実施されなかったようでした。



平成16年 富士講に参加した
地域の方々の集合写真

(2) 地域の特産

東豊浜は水産業がさかんな地域でした。かつては海苔の加工、貝掘り、魚市場での穴子開きなどでにぎわっていたようです。しかし、環境の変化や生活様式の変化にともない、漁業は衰退していったそうで、現役で漁師をやっている人も少なくなっています。そこで、当時を知り、この地域の特産ともいえるおせんべいを作り続けている角屋水産さんにお話を聞きに行きました。



魚市場での穴子開き



貝の選別作業中



豊北漁港

昭和後期ごろの地域の様子 水産業が盛んだった

角屋水産さんは創業80年以上の老舗です。創業当時はこの地域でえびがたくさん獲れたため、そのえびを使ってえびせんべいづくりを始めたようです。昔は同業者が何軒もあったそうですが、今はこの角屋水産さん1軒となっています。せんべいのつくり方はおじいさんの代から変わっていないそうですが、材料は地域で獲れるえびの量が少なくなったため、他の地域で獲れたえびに地域で獲れたえびを混ぜて使用しているようです。



製造の機械は20台あり、ガスではなく電気を使うことでパリッとした食感を生み出しています。

角屋水産さんで働いているお二人が一枚一枚丁寧に手作業で焼き上げ、袋詰めしています。食べると、他のスナック菓子などとは異なり、ほんのりとした素朴な塩味でおいしいです。角屋水産さんのお話では、「きっとわたしたちの代で、(せんべいづくりは) 終わりだと思う。でも、みんなが美味しいと言ってくれるから続けられる。」とおっしゃっていました。地域のみんなが小さいころから親しんだ味を、これからも大切に味わっていききたいです。



(3) 地域で大切にしている花



東豊浜には、伊勢市でここにしかないハマボウの群生地があります。ハマボウは、アオイ科の落葉低木で、ハイビスカスと同じ仲間になります。日本で

は関東南部から東北地方、紀伊半島、中国西部、四国、九州、奄美大島まで分布しています。

河口や静かな湾内、入り江などの海岸塩湿地に見られ、満潮になると海水に浸るようなところでも生育することができ、夏に6～8cmの黄色い花を咲かせます。朝に咲いて一日でしぼんでしまう一日花ですが、毎日たくさんの花をつけます。

和名は、浜辺に生える朴の木（ハウノキ）を意味し、花言葉は「楽しい思い出」です。希少植物に指定されており、三重県の絶滅のおそれのある動植物種のリストでは「絶滅危惧種Ⅱ類」に分類されています。



まちづくり協議会の方のお話

このハマボウの群生地を守るために、まちづくり協議会では草刈りや整地などの整備を毎年行っています。ベンチも設置されていますので、伊勢市ウォーキングコース「浜海道」のコース途中の一休みにハマボウの観察を試みはいかがでしょうか。



(4) 地域の農業



古くからハウス栽培が盛んであり、野菜や花などがよく栽培されています。東豊浜にあるガーベラ農家さんにお話を聞かせてもらいました。

日頃お仕事をしてみえるハウスの中にも入らせてもらい、夏場の暑いときにはとっても大変なお仕事であることがわかりました。

また、この農家さんでは水耕栽培をしているため、仕事をするときには腰をかがめなくていいけれど、停電になると水が停まってしまうため、災害が起こったときには大変なことになることも教えていただきました。



ガーベラ農家さんのお話

この地域は昔から野菜作りが盛んで、野菜を作る合間に菊やガーベラを作って売り始めました。作業時間は季節によって異なりますが、夏場はハウスの中が暑くなるので、日中は避けて作業をしています。水の量や肥料を気温や花の状態によって調整しながら毎日花のお世話をします。苗を植えてからだいたい3か月で収穫できるようになり、週に3回収穫します。収穫した花は、規格によってランク付けし、10本の束にし、100本を箱詰めにして大阪の市場などに出荷します。

母の日やクリスマスの時期にはよく売れます。仕事で大変なこともあります。お花を買ってくれたお客さんが喜んでくれるのがうれしいし、やりがいを感じます。



青ねぎ、ミニトマトなどもよく栽培されています。



「ネギむき」作業

青ねぎは、昔はカップ麺の具材として、東豊浜で獲れた青ねぎを乾燥ねぎにしたものが入っていたこともあったそうです。

檜原地区に乾燥ねぎの工場が建設されていたそうで、ある製品に入っている乾燥ねぎの90%ほどが、東豊浜で作られたねぎを乾燥させたものだったこともあったそうです。

ただ、昔よりは、ねぎの農家さんも減ってきているようでした。しかし、今でもねぎは指定産地となっていて、伊勢市の学校給食にもよく使われています。

指定野菜とは、消費量が多い野菜や多くなることが見込まれる野菜です。野菜の値段を安定させて、みんながいつでも野菜を食べられるように指定しています。指定野菜は、キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ピーマン、レタス、たまねぎ、ジャガイモ、ほうれんそうの14品目です。(引用：農林水産省HP こどもそうだん 野菜・くだもの)



東豊浜町の地域の特色として、主に半農半漁で生活を支えていたころの習慣や地域の活動が今も色濃く残っていることが分かりました。

しかし、変わらないものもあれば、時代とともに少しずつ形を変えるものや、絶えてしまう文化もあることも分かってきました。

昔から受け継がれてきたバトンを、これからもつないでいくために、より自分たちの地域を深く知っていきたいです。



市制 20 周年記念



わたしたちが これからも大切にして いきたいもの

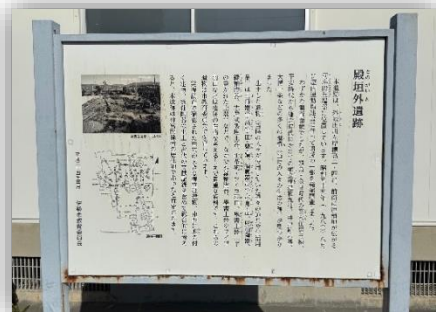


豊浜西小学校

令和 6 年度 5年生の取組

●学校が遺跡？！

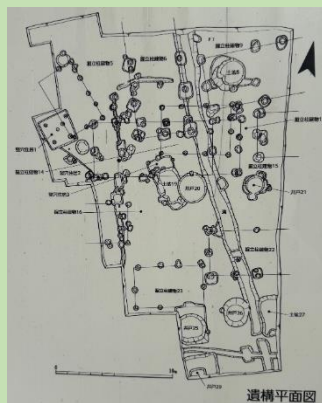
私たちが通うここ豊浜西小学校は遺跡だった？！体育館正面玄関のそばになにか案内板があるなとは思っていたが、それが「殿垣外遺跡」の説明だった。



「殿垣外遺跡」とは、飛鳥・奈良時代から鎌倉時代前半の遺構で、現在の豊浜西小学校を中心に東西 260m 南北 150m ほどの範囲にあったとされる。昭和 55 年に体育館を新築する際に調査がおこなわれ、飛鳥・奈良時代の竪穴式住居 3 棟、平安時代の掘立柱建物 2 棟、鎌倉時代の掘立柱建物 5 棟の跡等が確認され、土師器片・須恵器片・山茶碗片・陶器片などの遺物も見つかった。学校にもその一部があり、今回見ることで良かった。何百年も前のものがこうして残っているのはとてもすごいことだと思った。これからも大切に残していかなければならないと感じた。



【甕（かめ）】
酒や水を入れるのに使ったそうだ。



【調査の時にわかった遺構の図】

体育館の下に数百年に渡ってたくさんの建物が建てられていたことがわかり驚いた。



●「方言と共通語」の学習から

「おーきんなー」・・・伊勢にはこのように味わいのある方言がたくさんある。

国語教材（光村図書５年）に「方言と共通語」という単元がある。そこには「塩の味」を全国各地の方言でどう表現するのか、分布地図が掲載されている。また、神田卓朗『三重弁やん』（風媒社）には、「机をつる＝運ぶ」「肉をいろう＝触る」「消しゴムたろて＝取って」「テレビがやぶれた＝壊れた」「見えやんやん＝見えないでしょ!」など、おもしろい伊勢弁がたくさん載っている。——これらの学習を手始めに今度は、自分たちで家族・親戚・近所の人など、自分の周りの人たちから「三重弁・伊勢弁・豊浜弁」を探してこようという活動に入った。家族に聞いてみたら、いろいろたくさんの方言について知ることができた。確かにこれまでもなんとなく聞いた言葉もあれば、まったく初めてのものもあってとても面白いなと思った。

●伊勢・豊浜の方言を調べよう

言葉がたくさん集まってきた。共通語のみでは伝えきれない情緒を含んだ言葉だ。聞く際に使い方についても確認してみた。意味はそこではっきりわかった。どうしてこのような



言葉になったかは、はっきりしないことが多かったが、自分たちの地域に合った響きが感じられ、これからも残していけるといいと思った。

(言葉)

おくんない

(教えてくれた人)

お母さん

(意味)

ちょうだい

(使用例)

それ美味しそうやな、ちょっとおくんない

(言葉)

けなるい

(教えてくれた人)

おばあちゃん

(意味)

うらやましい

(使用例)

そんなにはよ動けるなんてけなるいなあ。

(言葉)

ずつない

(教えてくれた人)

おじいちゃん

(意味)

調子が悪い

(使用例)

ひざがずつない。

(言葉)

あばばい

(教えてくれた人)

お父さん

(意味)

まぶしい

(使用例)

そんな目を細めてあばばいんか。

●伊勢方言を「折り染め」に仕上げ披露しよう

自分たちの語彙が豊かになったことを祝い、和紙と染料で折り染め作品として仕上げた。そしてそれを示しながら学習発表会で調べた内容とともに披露した。他の学年の子に意味を尋ねながら発表したが、みんなも私たちと同じで、聞いたことがあり意味も分かるものと、そうでないもの両方があるって気持ちを共有できた。みんなにも伝えることができたので、学校生活の中でも使えるものは、これからは話してみようと思った。



方言と学校の遺跡について調べ、たくさんのことを知ることができた。これまでの地域の人々の暮らしに触れることができ良かったと思う。過去から今、今から未来へ、時間は繋がっている。これまでを未来につなげるのは私たちなので、大切な「記憶」を大事にしていきたい。

市制 20 周年記念



未来へ続け！

～北浜の伝統行事・農業～



北浜小学校

令和 6 年度 5年生の取組

かしらまい
北浜の獅子舞「お頭 舞」

一般では獅子舞といわれますが、北浜や宮川流域周辺では「お頭舞」と言います。村松では2月に神事祭礼が行われます。神事祭礼とは町内をまわって町や町民に悪いことがおこらないようにという思いを込めて舞うものです。そして平和を願います。

先代のお頭さん

先代のお頭さんは、1519(永正 16)年に修理をした記録があり、505 年前にはすでに「お頭舞」が行われていたことがわかっています。先代のお頭さんは宇氣比神社でしか舞いません。それは、二代目に神様が降りて、町内を災いから守っていくためです。

二代目のお頭さん

二代目のお頭さんは、1982 (昭和 57) 年に奉納されました。

※お頭さん…獅子の頭のこと



刀抜きの様子

お頭舞は太鼓と笛の音に合わせて舞います。序曲、ヤマタノオロチが山のほこらに眠っているところから始まります。舞は中守・初段・二段・三段・四段・五段・(六段)・スラエ・御礼・へいばいがあります。

神事祭礼の中で刀抜きという行事があります。通りに張られた縄を季節の境と見立てて、手前を「冬」、奥を「春」として若い衆が希望に満ちた春をむかえんと押し合う中に、お頭さんがその中に入ります。そこで、縄が切られると、若い衆は「一番春」を目ざして競争します。



舞っている様子



子どもお頭舞の練習の様子

村松の盆踊り

・盆踊りの日

盆踊りは昔は7月15日に行われていましたが、明治時代になってからは、8月15日に行われるようになりました。

・盆にすること

ぼんすすはき しょう
盆煤掃と称して家の掃除をして仏間などを
しょうろう
清め精霊さんをむかえます。

※精霊さん…先祖の霊

・盆踊りをする理由

精霊さんが帰ってくる場所がわかるようにし、さびしくならないように踊ります。そして、お経を読んでもらうために家に来てもらう盆参りがあります。



盆踊りを踊っている様子

地域の人に聞いた話



現在はCDなどで盆踊りの曲をかけていますが、以前はカセットテープでかけていました。昔は11曲でしたが、今は8曲になっています。以前の盆踊りは、着物を着て踊る人が多く、花火は行われていませんでした。また、農協の裏の大きい倉庫のような場所で活動していた青年団が盆踊りを開催していました。今は若い人たちが少なくなったので、青年団がなくなり、町会が盆踊りを開催しています。昔の盆踊りは、お寺と浜辺で1日交代で3日間行われていましたが、現在では盆踊りを2日間（今年は1日）行っています。現在も使用されている盆踊りの曲である「伊勢は村松夫婦節（いせはむらまつめおとぶし）」は平成26年に作られた曲です。

2024年の盆踊り

盆踊りは「炭坑節」「東京音頭」「さんさんさんば
「伊勢音頭」「伊勢は村松夫婦節」「いわきやっち
き」「ダンシングヒーロー」「しょんがい」の8曲で
した。毎年踊られている曲は「ダンシングヒーロー」
で、その時が1番盛り上がります。1番盛り上がる曲
である「ダンシングヒーロー」を踊っている時に5分
間花火が打ち上がります。花火は人を集めたり、楽し
んでもらったりするために行われています。

北浜の農業

普段私たちが食べている野菜や米などはどのようにして私たちの元へ届いているのかが気になり、北浜の農業について調べることにしました。

【北浜が農業に適している理由】

北浜は地形がとても平らで平地が広がっています。元々、平らだと土地を平らに整地する必要がないためすぐ田畑を作ることができます。

また、のどかな田畑に適している風景に彩られたこの北浜には宮川から、新鮮で栄養豊富な水が流れています。そのため美味しい作物をたくさん作ることができます。



北浜で農業をしている人の話②

私の家では米や、とうもろこしを育てています。私の家の米の種類はコシヒカリです。コシヒカリは甘さがあり粘りが強く、とてもおいしいです。

米は栄養がとてもあるので、ジャンボタニシが米を食べに来てしまいます。そのため、ジャンボタニシを見つけ、駆除しなければならないのです。このような大変なこともあります。米作りは楽しいです。

北浜で農業をしている人の話①

私が作っている野菜は、玉ねぎ、長ネギ、スナックえんどう、ニンニク、ゴーヤです。一番大変な野菜は、玉ねぎです。なぜかというとしゃがんで作業をするととても腰を痛めてしまうからです。そして一番作りやすい野菜はニンニク、ネギです。ニンニク、ネギは臭いが強いので、害虫に食べられないからです。



北浜で育てられているネギの写真

北浜小学校の米作り

村松ふるさと保全会の方々にご協力いただき、北浜小学校の高学年は、米作りや稲刈りを北浜小学校の近くにある学習田で行っています。

また、学習田で育てている「神楽米」という餅米を使い、1月には餅つきが北浜小学校で行われ、全校児童にふるまわれました。田植えは実際に自分たちでやってみると、とても根気が必要で、体も痛くなりました。現在では機械を使い田植えや稲刈りがされていますが、昔の人はこんなに大変なんだと感ずることができるととても貴重な体験となりました。



北浜の田植えと
稲刈りの様子



北浜の田んぼ



餅つきの様子

北浜のかんこ踊り

(1) 北浜のかんこ踊りとは？

北浜のかんこ踊りとは先祖祭りの一つで、今年亡くなった人たちを極楽浄土（ごくらくじょうど）に送り届けるための踊りです。かんこ踊りを踊ることは、念仏やお経を唱えるのと同じことです。そして、みんなが楽しく踊っているだけではなく、

「～（亡くなった人の名前）の念仏を申しましょう。」

と言い、その他の人たちが、

「そりゃよかろう。」

と応え、かんこ踊りが始まります。亡くなった一人一人の名前をかんこ踊りの念仏で唱え、

「極楽浄土に行ってくださいよ～。天国で元気でね～。」

という思いを込めかんこ踊りを踊っています。



花火の中に極楽浄土があり、
その中に亡くなられた人がいて、「極楽浄土に行ってくださいよ～」と思いこめて花火の中で踊っています



かんこ踊りを 12 人で踊ろうとしている大人たち

(2) なぜ 8 月 14 日にやるのか？

8 月というとお盆があり、お墓参りをしたり、家族や親戚と集まったりします。家族や親戚が集まるお盆の日に、お寺のお坊さんが各家庭に来て「南無阿弥陀仏」とお経をあげてもらうのと同じように、夜は亡くなられた人が成仏し、極楽浄土に行くことができるようにとの思いを込めてみんなでかんこ踊りを踊っています。

丸い円があり、1 人亡くなると 12 人で丸い円の中に入って踊り、例えば 2 人亡くなると 24 人で踊ります。

（３）準備は何ヶ月前に行うのだろうか？

本番は８月１４日（お盆）ですが、事前の準備は７月の下旬頃から始まります。倉庫にしまっている「かんこ（太鼓）」や様々な道具を出してきて、それを日に当てて「今年も使えますように。」という思いをこめて「どうようぼし」が行われます。

「つつ」と「かわ」という「かんこ」にはってあるものを、「ひも」で巻いて太鼓のようにしたものを「かんこ締め」といい、「かんこ締め」をして「かんこ」を作り、３・４日間練習が行われます。８月１４日（お盆）の本番に間に合うように、このような準備をしているのだそうです。

有滝町会長さんのお話

有滝町のかんこ踊りは１００年以上続いており、亡くなった人たちをご供養するために先祖祭りを続けています。

できればずっと続けて残していきたいですが、高齢化が進み参加する人たちがお年寄りの人ばかりになってきているので、中学生や小学生の子どもたちに歴史などに興味を持ってもらい、たくさん参加してもらいたいです。そして有滝町のかんこ踊りを残していってほしいと思っています。

みなさんが、かんこ踊りに興味をもってくれるのはとても嬉しいです、かんこ踊りについて学んでいくことが大切だと思います。



かんこなどの準備をしている大人たち

太鼓を持って、みんなで押し合いながら花火の中に入っていきます



かんこ踊りの歌

さ～な～む（左を向いて南無）
う～あ～み（右を向いて阿弥）
ど～～ばい（同拝、同じように拝んで）
よいやさ～よいやさ～
（世のいやさかを願うために）
さ～え～（回向しよう）
そ～え～や（回向しよう）

村松祇園祭

①祇園祭（天王祭）とは

亀池神社からスタートし、山車に神様を乗せて町内を一周して、また亀池神社まで戻って来るお祭りです。神様を乗せて町内をめぐり、災いなどを追い払ったり、また田畑を害虫から守ったりするため、祇園祭（天王祭）をやっているそうです。でもなぜ始めたのかははっきりわかっていないそうです。

②村松町祇園祭でやる事

まず老人会館で行われる座敷はじめでお神酒をいただき、音頭を取ります。その後村松魚港近くからいよいよ山車の出発です。明るいうちから活気あふれる曳き手による練り歩きが始まりますが、日が落ちるとさらに熱気は最高潮になります。所挟^{ところせま}しと並んだちょうちんに一斉^{いつせい}にあかりが灯り、幻想的な雰囲気^{とも}をかもしだします。

③歌（祇園祭で山車を引きながら歌います）

（曲名 祇園囃子（ぎおんばやし）…浜口 惣七さんがつくりました）

一、

今日は文月十四日 日がらもようて
日もようて 祇園座敷で若い衆が
ひきうけました祭礼は
誓うこの日の晴れ姿

二、

朝熊おろしに流れくる 祇園囃子に町の衆が
そろい衣裳でつなを引く
山が行く行く街道は 明日は黄金^{こがね}の波がうつ

三、

夜は不夜城浦浜の 波に輝やく火車の
天下御免の中休み 浜の真砂^{まさご}のあだ情
想いとどけよ漁火^{いさりび}に

四、

提灯^{あかり}の波も港河岸^{かし} 千秋万れい思いもかなう
末は鶴かめ五葉松 おさめを歌う若い衆
にシャンシャンウッテーと月入れ^{いりまし}



歌の練習の様子

④祇園祭の始まり

祇園祭（天王祭）は1970年から始まり、青年団が仕切っていた座敷始めの祭りです。

※座敷始めとは……ざしきという名前のしきものを敷き、そこからお祭りが始まるということです。

⑤楽器

祇園祭で使われる笛や太鼓、シンバルなどの様々な楽器の練習が、老人会館で行われています。本番は座敷はじめの音楽から始まります。

⑥時間

午後7時～9時までの2時間、山車をひいて町を回ります。

⑦着物種類

小学生は背中に祭と書いてあるハッピ、中学生は黄色い着物のようなものと頭に白いねじりはちまき、高校生以上は大人用の紫色の着物を着て参加します。

祭礼保全会のみなさんからの話

「いつの日か、少子化や祭り離れにより、伝統行事を継承していくことが困難になる」こうした危惧から、平成10年5月に村松町の祭礼保全会が設立されました。現在では、44名の団体で祭礼の準備から運営までを行なっています。町会及び神楽師会等と力を合わせ、伝統を守り、後世に伝統行事を伝承していくために奮闘しています。

村松町会さんからの話

神様を乗せて町内をめぐり、災いなどを追い払ったり、また田畑を害虫から守ったりするため祇園祭（天王祭）をやっています。でもなぜ始めたのかははっきりわかりません。町内の安心安全と五穀豊穰・大漁満足を祈願し、町内の安全を願い亀池神社の神様を山車に移して、町内を回るお祭りです。



祇園祭の山車を引く様子

市制 20 周年記念



東大淀の祇園祭 安全防災マップ作り



東大淀小学校

令和 6 年度 3年生の取組

東大淀の祇園祭

私たち東大淀地区には昔から伝わる行事として、7月に行われる祇園祭があります。地域のみんなで、だしを引っぱって地区をねり歩きます。小学生や中学生らは、だしの中で太鼓や三味線を演奏したり、だしの周りで旗や花がさを持っていっしょに歩いたりして、祭りを盛り上げます。



私は今年、花がさを持ちました。花がさは、すごく重たかったです。暑い日だったけど、ハッピを着て、楽しかったです。楽しくもり上がる地域の行事なので、これからも続けてほしいです。

今年は、友だちが花がさを持って、「重たい」と言っていたので、自分も持って歩いてみたいと思いました。私は来年、花がさを持ってみたいです。

私は、太鼓をひいている中学生が、かっこよかったから、山車（だし）に乗って、太鼓をやってみたいです。



東大淀の安全防災マップ作り

東大淀小学校では、毎年3年生が東大淀町づくり協議会の方々と協力して、校区数か所の安全防災マップを作っています。何年かで全ての地区を回ることになりますが、数年後には古くなってしまった施設があったり、新しい施設ができていたりするので、毎年安全防災マップを作ることは大切なことです。



消火栓を開けると、水を出す栓があったよ。



学校にも防火水槽があるんだね。

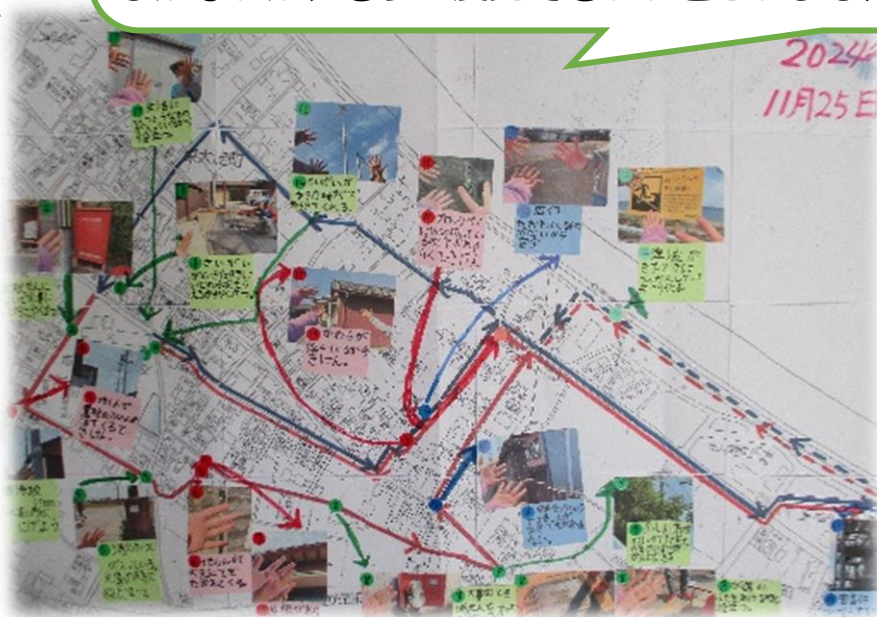


調べた施設やきけんな場所をみんなで話し合いながら、大きな地図にメモしました。全校のみんなに見やすい地図になるように、ふせんの色と矢印の色をそろえたり、地図の周りに写真をおいたりして工夫しました。出来上がった地図は、1階のけいじ板にはり出して、全校のみんながいつでも見られるようにしました。

ボランティアさんが、学校のわたりろ
うかにある防火水そうを見せてくれたり、コンクリートと畑の空き地では、畑の空き地の方ににげたほうがいいと教えてもらったりしました。みんなに安全な所・きけんな所を知らせた方がいいので、これからも続けてほしいです。

私たちの身の回りには、たくさんのきけんな物や場所・安全な物や場所があると分かりました。いっしょにボランティアさんも来てくれました。タウンウォッチングをやった所でも新しくなるので、これからもやったほうがいいなと思いました。

「町には、こんな物があるんだな」とか「これ、安全だな」と思いながら、きろくしました。学校にもどって、大きい地図にシールとふせんをいっしょにおとしました。タウンウォッチングでの見のがしがないか、もう一度見てもいいと思いました。



市制 20 周年記念



自然豊かな城田小学校



城田小学校

令和 6 年度 4年生の取組

自然ゆたかな城田小学校

わたしたちの住む城田小校区は水田が広がり、農業がさかんな地域です。4年生では、校区を流れる汁谷川の生き物を調べたり、実験を通して水のようなすを調べたりします。



①汁谷川で生物さいしゅうと、とれた生き物の仕分け



とれた生き物を種類別に分けて数を数えよう。



②汁谷川でとれた生き物を調査すると、たくさんの生き物がすんでいることが分かりました。



コヤマトンボ(ヤゴ)



ハグロトンボ



アメリカザリガニ

アメリカザリガニがいるということは、汁谷川の水はきたないのかな？



カワナが住んでいるところは、水の流れが少しゆるやかで、きれいな水のところだそうです。汁谷川は土が多い川なので、アメリカザリガニなどの生き物も住むことができます。調査の結果から、汁谷川の水はきれいな水ということが分かりました。

きれいな汁谷川をこれからも守っていきたいと思います。



カワナ

ちがう日に行った時は、上から見ただけだったけど、今日はじっさいに入って川をあみでさがしたら、いろんな生き物がとれて楽しかったです。汁谷川にいろんな生き物がこんなにいるのは知らなかったです。

さいしょは何もいなかったけど、あみをつかってすくうといたので、びっくりしました。みんなでアメリカザリガニやコヤマトンボ、ハグロトンボ、カワナなどいろいろとれて、いっぱいいたんだなと思いました。

市制20周年記念



上野百景

～受け継いでいきたいもの～



上野小学校
令和6年度 4年生の取組

円座町

かんこ踊り



円座地区には、正覚寺というお寺があり、毎年お盆の時期にかんこ踊りが行われている。円座町のかんこ踊りは戦時中、一時途絶えたものの、その後、地区の人々の熱意と努力によって復活し、400年以上たった今でも地元の子どもたちへと伝承されている。



正覚寺

米山新田

江戸時代の初め、円座町一帯は、土地が高く、近くを流れる宮川から水を引き込むことができなかった。そのため、毎年年貢を確保するのに苦勞していた。代々大庄屋を担っていた米山家は、村人たちと協力して水路を作り、長い年月をかけて新田開発を行った。今でもその素晴らしい新田が残されている。



円座村墾田碑



横輪町

横輪いも

横輪町では、横輪桜や横輪川など自然豊かな場所がある。また、「横輪いも」という粘り気の強い芋が地域の特産物となり、地元の小学生が定植や収穫体験を行っている。



上野町

日向野里

地元の小学生が田植えや稲刈り体験などを行っている。上野町には今でもたくさんの自然が残っており，ここではたくさんの生き物を見ることができる。



赤井神社・ゆうすげの丘

赤井神社内にある山頂広場にはゆうすげの花があり，6月下旬から8月中旬が見頃である。ゆうすげは絶滅危惧種にも指定されており，地域の人々が中心になってゆうすげの保存を行い，今年通算10万本のゆうすげが植えられた。



赤井神社

赤井神社では、ふくろうやうさぎも見ることができる。



10万本が植えられた記念日



市制 20 周年記念



小俣遺産

～Obata heritage～

私たちが20年後に残したいものこと



小俣小学校

令和 6 年度 4年生の取組

絵本と童話の店 みやがわ書店は伊勢市小俣町にある67年続く絵本専門店です。

TOPIC1

みやがわ書店の秘密

みやがわ書店は絵本がいっぱいある本屋さんです。私たちの学校の近くにあって、小さい頃から通っている人や、絵を習いに行っている人がいます。

絵本ばあばと絵本ばあばの家族の4人で宮川書店を1957年に始めました。それから少したち、1959年9月伊勢湾台風により、みやがわ書店が被害にありました。それから数年たち、1989年12月拡大のため今の店舗に移動しました。それと店の名前を「みやがわ書店」にして、これまでの店舗をギャラリー「イベントハウス」として改装オープンしました。名前の由来は日本で1番綺麗な川だからみやがわ書店にしました。それから1997年5月10日店名を今の「絵本と童話の店 みやがわ書店」としてリニューアルオープンしました。

絵本ばあばは子供たちが大好きで、子供に本を好きになってもらって、豊かな人生を送ってほしいから絵本の専門店を開きました。みやがわ書店は3000冊以上の絵本があり、県外からもたくさんの人が訪れる本屋さんです。



20年後に残したい私たちの思い

みやがわ書店は絵本好きにはたまらない場所です。作者も来てくれて絵の教室もあるので一石二鳥です。実は三重県の書店の数がどんどん減っているの、この素敵な場所をなくさないためには、私たちがみやがわ書店のことをアピールしてここに来る人を増やしたいです。自分たちが親になった時には、お金を集めてキッズスペースを作りたいです。



TOPIC2

絵本ばあばについて

橋村孝子さんは、みやがわ書店の店長で、みんなから絵本ばあばと呼ばれています。それにたくさん講演会に行っていて、みんなから引っ張りだこのおばあちゃんです。

絵本ばあばは、絵本も子供も大好きで、とても優しく、おしゃべりです。1976年に夫のお父さんを亡くし、伊勢市小俣町へ帰って来て、みやがわ書店を受け継ぐことになりました。

絵本ばあばは「楽しい！面白い！も大事だけど、考えさせられる本や紙芝居に出会ってもらうことの大事さを痛感しました」ということを言っています。

「はらぺこあおむし」を書いたエリックカールさんと友達で、お店にはエリックカールさんの絵が貼ってあります。



TOPIC3

戦争の悲惨さ



絵本ばあばは、戦争を体験しており、もう戦争をしてほしくないという思いで私たちに戦争の本を読み聞かせしてくれました。読み聞かせしてくれた中の『二度と』という紙芝居がとても印象的でした。「ノーモア広島、ノーモア長崎」この言葉が心に残って、戦争の悲惨さを知ることができる物語でした。

親戚があるうちは田舎に引っ越す（縁故疎開）、親戚がいない人はお寺や公民館に疎開する（集団疎開）という疎開の制度があって、ばあばは大阪から三重に縁故疎開しました。家族に「天皇陛下の玉音放送があるから聞きなさい」と言われて聞いていたら、日本は戦争に負けたということでした。もう逃げなくてよくなったけど、食べ物や学校へ持って行く物もなくて、お弁当すらもなかった過酷な時代でした。

自分たちはばあばが話してくれた戦争の話を聞いて、戦争をすることはとてもつらい事なんだなと思いました。そして、もう起こさないよう努力したいと思いました。私たちは戦争を起こさないよう呼びかけたり、ばあばの話を伝えたりして戦争がない世の中にしようと思いました。



おばたまつり・おばた町民体育祭

2024

私たちの町には「おばたまつり」と「おばた町民体育祭」という二大イベントがあります。
二つのイベントについてまちづくり協議会の雲井さん、黒田さん、稲垣さんにお話を聞きました。

OBATA

TOPIC1

おばたまつり&おばた町民体育祭とは！

おばたまつり

毎年8月、夏休みの最後の土曜日に小俣中学校で開催されるおまつりです。屋台、ダンスなどの発表、おかしまきなどがあって楽しいです。中でも花火が有名なので紹介します。

おばたまつりの花火は手筒花火です。手筒花火の重さは、小さいものは600g、それに対して何と大きいものは6kgもあるそうです。手で持って花火を打ち上げるので防火服を着ますが、火傷をすることもあります。

おばた町民体育祭

14年ぶりに大仏山公園で開催された、体育祭です。様々な競技やおかしまき、キッチンカーなど楽しむことがいっぱいです。そんなおばた町民体育祭のよさは参加すると参加賞をもらえて、競技がたくさんある所です。さらに、いろんな年齢の人が競技に参加できるのが一番の特徴です。実際に競技をみてドキドキしました。見るのも楽しかったです。

TOPIC2

二大イベントのお楽しみ！！

かしまき

かしまきは20万円～35万円分のおかしをトラックなどからまきます。まくための大量のおかしはおばたのお店で買っているそうです。

屋台

おばたまつりや町民体育祭には来てくれた人に楽しんでもらうために、たくさんの屋台があります。高校生や大人がボランティアでしてくれています。また子供が買える値段にしてくれていて、買いやすいです。

TOPIC3

まちづくり協議会の方や地域の社会の人々の思い



おばたまつりと小俣町民体育祭を開催してくださった人は町づくり協議会の方たちです。まちづくり協議会の方は、おばたまつりと町民体育祭を開催するために夜遅くまで起きてみんなのためにがんばって考えてくれています。でも、これはボランティアなので給料はありません。ですが、私たちがイベントを楽しむことを想像するとがんばれるそうです。

また、イベントのお金が足りなくなる場合もあります。そんなとき、おばたの色々な会社がお金が足りなくなったらだしてくれれます。ですが、会社の人はずいぶんお金を出してくれるのでしょうか。それは会社の人たちも私たちが笑顔になってほしいからだと思います。

このように、小俣にある会社が協力してくれたり、町づくり協議会の人たちが忙しい中、おばたまつりと町民体育祭のことを時間をかけて考えてくれたりしているからみんなで楽しめるのです。



TOPIC4

20年後まで残していくためにみんなにできること

おばたまつりやおばた町民体育祭を20年後まで残していくためにみんなに出来る事を考えました。20年後もおばたの2大イベントを残すためにポスターを書くことでみんなに知ってもらったり、友達を誘って一緒に行ったりすることがわたしたちにできることだと思います。みんなが行くことで有名になり、行く人が喜ぶと思います。それが続いていくことで20年後にも残していけると考えます。





官舎神社・離宮さん

未来へつなく 魅力あふれる神社

2024

OBATA

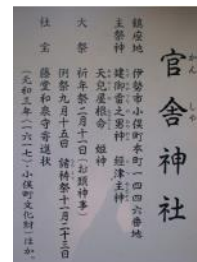
TOPIC1

官舎神社の神様と歴史

官舎神社には、タケミカヅチノオノカミなど二十柱も神様がまつられています。官舎神社に行くといろいろな神様がいて、そのぶん福がおとずれたり守ってくれたりしています。神様は、良いことが起きるように願ったり嫌なことが起きないように願ったり、いろいろな役目をして自分たちを守ってくれています。

そんな神様をおまつりしている官舎神社は 797 年にできました。偉大な人が泊まったとされる場所の跡にできたといわれています。797 年からの神社のことは神主さんが受け継いできた本に書かれています。しかし、官舎神社は、戦で焼けてしまいました。地域のみんなで力を合わせ、官舎神社は再建されました。再建されるほど良い神社です。また、1200 年もの歴史も持っています。こんな官舎神社が無くなってしまったらその二十柱の神様たちの居場所や長い歴史が無くなるかもしれませんので、官舎神社を 20 年後に残してください。

JR 参宮線宮川駅下車より徒歩 5 分
「離宮さん」「旅の宮」「大漁宮」
と呼ばれている。



TOPIC2

自然豊かな官舎神社

神社には参道があり参道には表参道と裏参道があります。参道は神様が通る道でお参りする道でもあります。また、お参りをしながら自然と触れ合うことも出来ます。きれいな酸素を出すために官舎神社は木で囲まれています。昭和47年に憩いの場としてみんなが自然と触れ合うために市からお金をもらって公園を作りました。

ちんじゅの森、お水、木、石などに神様がきます。

官舎神社では、神社の中には神様がいる部屋があるのでキレイにしています。そして、このように外も中もキレイにしているからみんなが来てくれるんだと思います。キレイにすると気持ちいいし、神様もみんなも気持ちよく過ごせます。みんなが来れる憩いの場になっています。



TOPIC3

官舎神社の魅力

毎年2月11日に獅子舞（お頭神事）という行事をします。官舎神社の年行事の一つにもなっていて、頭を噛んでもらい健やかな成長を願うものです。

神職はお参りされた方たちの願いを神様に伝えています。神様のお守りをご得られると信じているからです。神様に伝えるときには「大和言葉」が使われます。「大和言葉」は、今も使われつづけ、後付けではいつてきた漢字から離れて「音」そのものが意味をもつことが多いです。そこがひとつの特徴でもあります。数千年という長い時を超え、神社では今もなお使われ続けているのです。

神社は神様をおまつりするところです。官舎神社の宮司さんは「官舎神社の中をきれいにするのはうれしいのですが、ゴミをポイ捨てするのはやめてほしいです。」と話されていました。神様をおまつりするところなので官舎神社に来る時はきれいにしましょう。

おばた離宮院太鼓

楽しもう！みんなのおばた離宮院太鼓！

2024

OBATA

TOPIC1

おばた離宮院太鼓っていつできたの？

おばた離宮院太鼓は、平成2年（1990）7月にできました。2024年で、34年目です。子ども和太鼓は、勉強の合間に日本の伝統芸能である和太鼓を知ってほしい、子どもの集中力や、リズム感を養ってほしいという願いをこめて、平成3年（1991）7月にできました。普段は小俣農村環境改善センターで毎週水曜日の夜7時から8時半まで練習をしています。色々なイベントに参加しています。

稲垣先生の気持ち

稲垣先生は太鼓でみんなが楽しんでほしいという気持ちを持っている。演奏を聞いている人も楽しくなるために、自分たちが楽しく笑顔で演奏している。20年後もおばた離宮院太鼓が残るように受けついでほしいと思っています。

自分たちの気持ち

稲垣先生のおばた離宮院太鼓を受け継いで欲しいと思う気持ちを知らない人に伝えたい。まだ演奏を聞いてない人には聞いてほしい。やってみたい人は習ってみてほしい。稲垣先生の気持ちを知ってほしいと思います。みんなで離宮院太鼓を盛り上げたいと思います。



TOPIC2

演奏を聴いて思ったこと

お祭りなどでの演奏を聴いてみると、音が体に響いて迫力があり、心に響きました。たくさんの太鼓の種類があって、みんな違う音が出ていました。それぞれの太鼓の音がそろっていたから迫力が増していました。いろんな音が重なっていて特に笛は高い音なので太鼓の低い音と笛の高い音がかさなって綺麗な音でした。ずっと聴きたくなる音でした。



TOPIC3

太鼓をたたいてみてわかったこと

- ①太鼓をたたくことによってしんどうが全身に伝わります。太鼓のしんどうが「ブルブル」とうでだけでなく全身に伝わりました。太鼓によってはね返す力がちがうのでたたきやすさが全然ちがいました。太鼓をたたく力かげんによって音の大きさが変わったり、しんどうも大きくなったり小さくなったりします。
- ②太鼓の種類によって音がちがいます。太鼓は大きさやたいこの作り方によっていろんな音が出て、太鼓の演奏をきいているときにひら太鼓やおけ太鼓などのいろんな太鼓を使っているののでいろんな音がきこえて、きいている側もたたいている側も楽しくなりました。同じ太鼓でも音が少しずつちがいます。
- ③同じ種類の太鼓でも音に味があるものもあります。少しずつ音がちがうので太鼓の演奏を聞いている時も楽しくなります。
- ④腹の皮と背中の皮は音がちがいます。腹の皮は音が低くて、背中の皮は音が高いため1つのたいこでも腹の音と背中の音でちがいます。



市制 20 周年記念



未来へ残そう 明野 自まん



明野小学校

令和 6 年度 4年生の取組

明野しょうかい

明野は三重県伊勢市小俣町の中にあります。伊勢市は三重県の中東部に位置し、明野は宮川の下流近くにあります。明野は自然豊かな場所で、とても農業がさかんな地域です。宮川が近くを流れており、すぐにきれいな水が引けるので農業がさかんにできるのです。

明野の人口は、2024 年 11 月現在では 4,815 人です。明野には県立明野高校、伊勢市立明野小学校があります。小学生の児童数は年々増加けいこうにあります。

明野の地図は以下にけいさいしたとおりです。総面積は 4196.836 m²です。

明野の店はへんばや、イセヤ、わらしべ、はまぐちや、アポロン、あじへい、銀次郎、町家カフェがあります。明野のお土産として、へんばもちをおすすめします。くらじゅのくしあげ、マスヤ工場のおにぎりせんべい、アポロンのケーキも人気があります。

明野は緑豊かなところですが、近年建物がが増えて自然がなくなってきています。全国的にも森林がなくなる中、明野地区も同じように開発が進んでいます。



明野の生産業

明野には、マスヤ工場のおにぎりせんべい、へんばやのへんばもち、美和ロック伊勢工場などがあります。その中でマスヤ工場のおにぎりせんべいと美和ロック伊勢工場についてしょうかいします。

おにぎりせんべいは、伊勢市でしか作られていません。おにぎりの形をかたどった、ソフトな食感のおせんべいです。しょうゆ味のおせんべいは、発売当時からある味です。その他にもつぶ塩が付いた、銀しゃり味も人気です。

マスヤ工場のおにぎりせんべいはいつたん生したのか



マスヤ工場のおにぎりせんべいは、1969 年（昭和 44 年）の 7 月にたん生しました。マスヤ工場のせんべいは、今年で 55 周年です。

ミジュマルと
コラボして
いるよ！



美和ロック伊勢工場について

美和ロック伊勢工場は、小俣町にあります。美和ロックは、家の扉のカギなどを作っています。現在は、となり町の玉城町にある玉城工場をメイン工場としてカギは作っていて、伊勢工場は製品の検品をしたり、倉庫として使っていたりします。

美和ロック伊勢工場はいつ出来たのか

1945 年（昭和 20 年）5 月 5 日に美和ロック伊勢工場が出来たそうです。



へんばやの由来・れきし



へんばもちは、江戸時代から始まり、それから約 250 年続いてきました。へんばもちはお伊勢参りに来た人々が宮川の手前にあるこのお店で休けいをして馬を返してから、参ぱいしたことから、へんばもちと名付けられました。

昔は、宮川の近くにお店をかまえていましたが宮川に橋がかかり、現在の場所でえい業しています。そうぎょう当時のねだんは、50 円から 100 円で昔は手作業で作られていましたが、昭和 50 年代に機械化されました。

へんばもちの名前の由来は、もう一つあります。昔、病が流行し、とある家族は、その病に苦しんでいました。しかしそのおくさんは、その病にかからなかったのでひたすら伊勢神宮の鳥いの前で、家族のかいふくをいのっていました。

ある日のこと、そのおくさんの父親が、「自分の顔に病のせいでできた、はだあれを見たい。」と、たのみましたが、家には手かがみなどは無く、おくさんはこまりはててしまいました。

後日、父親の気をまぎらわせてあげようとおもちを焼きました。すると、おもちの焼き目が父親の顔にそっくりだったので父親に見せると、なぜかみるみるうちに病が

治ったので他に病にかかった兄弟たちなどにそれを食べさせると、また病がみるみるうちに治りました。

そのこともあり父親が、「これはずっとへんば所の鳥いの前でいのっていたからだな、だからこれは、へんばもちだな。」と言ったことから、へんばもちという名前になったという説もあります。

へんば餅(種類・作り方)



へんばもちの「あん」は国産あずきを丁寧にたき上げたなめらかなこしあんです。大きなあつりよくなべで、たき上がったじょうき豆のあずきから、窓を開けると工場いっぱい甘い香りがします。たきたてのあんは、すぐには使用せず冷ぞう庫で一日休息させることで、したざわりがよくやさしい甘さに仕上がっています。へんばもちの生地はげんせんされた国産の米粉をむし上げて丁寧につき上げます。へんば餅の焼き目が星やハート型に見えることがあります。



へんばやのこだわり

200 年以上前から創業されている「へんばや」。当時からほとんど変わらないこだわりをしょうかいします。

伊勢以外に、
店は作りません。



昔から味や見た目はあまり変わっていません。



えい生面にも、こだわって、5 個包そうにしています。



～こだわり～

- ・味や見た目を変えていません。
- ・つきたてのやわらかな生地をねかし、味のなじんだ、あんを包み合わせて昔から変わらない味わいがこだわりです。
- ・あんをたいた後、たき立てで餅に包むのではなく、1 日冷ぞう庫で冷やして口ざわりの良いあんになっています。
- ・もちはやわらかく、あんはあますぎず、サラッとしたこしあんです。
- ・えい生面にも気を付けています。



明野の農業



明野には、いろいろな農業があります。米はもちろん、麦や野菜も育てています。そんな明野の農業のじょうきょうについてくわしくお伝えします。



家で作りにくい野菜なども明野ではたくさん作って売っています。



昔は、伊勢たくあんがさかんでした。今はそんなに作られていません。

明野の畑は、およそ 100 か所以上あります。今は米作りがさかんです。

サンファームおばたの店長さんの話によると、野菜などを売っていた人たちのおよそ 3 分の 1 の方がなくなっているので、農家をやっている人も少なくなることが分かりました。

農業のうつりかわり

明野は、昔から農業がさかんで、特にタバコ、大根、電照ぎくがなどがさかんに作られていました。

電照ぎくをさいばいしていたビニールハウスを再利用し、バラ・トマト・イチゴ・メロンなどを作る農家さんが増えてきました。

また、ナシのさいばいもさかんです。



美味しいイチゴをありがとう

明野小学校の2年生は、毎年イチゴ農家の南さんにイチゴのさいばいについて教えてもらっています。

イチゴハウスでは、赤くじゅくしたイチゴをつませてもらっています。

南さん
の話



イチゴのなえが病気で全めつしたり、台風などでイチゴハウスがつぶれたりしたけど、食べてくれた人が「美味しかったよ」と言ってくれたことがうれしかったので、今より美味しいイチゴを作る研究をしています。



田んぼアートって何？

田んぼアートの発しょうと言われているのは青森県田舎館村です。小俣町では2015年に始まりました。

田んぼアートは、田植えの時期に異なる品種のいねを植えて、巨大な絵やもようをえがく日本の伝とう文化です。色あざやかにいろどられた田んぼは、まるで広大なキャンパスにえがかれた芸じゅつ作品のようです。ゆう大な自然との調和が美しく、おとずれる人々をみりょうします。



このデザインは明野小学校の4年生がイラストを描きました。

(2023)

みんなで作る田んぼアート

明野の田んぼアートは、2015年に第一回が始まりました。一番最初のデザインは明野小学校の6年生が書いて、5年生が田植えいねかりをしました。最初のテーマは『小俣のいちご』でした。2016年からは、4年生がイラストを書いて、5年生で田植えをするようになりました。

稲は6種類使われています。ななつぼし（緑）・こうだいこく（黄）・むらさきとう（紫）・べにあそび（赤）・あかねあそび（オレンジ）・ゆきあそび（白）の品種を使用しあざやかな作品を作り出します。

みんなで、カカシを作ったよ！



～未来へ残そう明野白まん～

きゅうさんぐうかいどうそ

- ・へんばや商店は伊勢市の旧参宮街道沿いの自然豊かな景色が広がる田舎でもち屋としてそう業して、250年となりました。かつて伊勢神宮をめざして多くの人が旅をした宮川の町は、おかげ参りへ向かう旅路の最後の宿場として有名になった場所でもありました。



- ・「おにぎりせんべい」は、1969年(昭和44年)7月にたん生しました。当時、おせんべいと言えば丸いものか四角いものがほとんどでした。そこで、おせんべいを作る事になった時、「三角形のおせんべいがあっても



いいじゃないか」と言うことで三角形のおせんべいが誕生し、「おにぎりせんべい」となりました。

- ・美和ロックは、カギとじょう前を軸としたトータルセキュリティメーカーです。商品企画・設計からせい造・はん売までいっかんした事業を行っています。建ちく物のカギの生産・はん売において国内では6わり以上にもなり、世界約50か国でせい品が使われています。人々に安全・安心をていきょうすること。せい品やサービスだけでなく、利便性を高めた「コンビニエントセキュリティ」を目指しています。



〈産業をしている人達の思い〉

地元の人たちのことを考えているため、へんばもちは、伊勢に来ないと食べられないという特別感を感じてもらいたいと思い、伊勢以外に店をつくらないようにしている。

明野自衛隊で働いていた人から「20年ぶりお店に来て、お店も味も全く変わってなくてうれしかった」と聞かせていただきました。

そう業当時からの味や歴史、伝とうを守り続けている。そのために、味を変えないことを大切にしている。そのほかにも建物や作り方、店の場所を変えないことを大切にしている。また、営業時間もそう業当時から変わっておらず、地元で農業を営む人々に合わせて店を開けています。

〈明野じまんを残すために私たちにできること〉

- ・明野を知ってもらうためにポスターを作る。
- ・産業をしている人の思いや願いを知り、大切に受けついでいく。
- ・明野の産業で働く人たちの「明野」に対する思いを、地域の人たちに知ってもらう。

未来へ残そう明野自まん



～明野じまんを残すために～ 「私たちにできること」

- ・ 明野の農業を残していくため、明野の農業のよいところを広めて、やってみたい！と思ってもらう。楽しみな事を教えたり、やりがい伝えたりする機会を作る。講演会など。
- ・ 自分達の活動のPRをし、明野のよさを知ってもらう。
- ・ 若い人たちに農業についてくわしく知ってもらう。（農業や産業のよいところを伝える。体験会など）
- ・ サンファームで明野のものを使ったマルシェを利用する。
- ・ サンファームのお仕事体験会に参加する。
- ・ 明野の野菜を自販機に設置して、明野で作った野菜を手軽に買えるようにする。
- ・ 子供向けのイベントなどを開さいして、明野で取れた野菜を景品にして食べてもらう。

～明野の農業の人の願い～

サンファーム小俣ではたらく人の声

「明野で農業をする人が増えて、明野のものを
使ってほしい・食べてほしい・知ってほしい。」
「地産地消の気持ちを大切にしてほしい。」

農家の人の声

「お金の面や、農地の広さなど、きびしい状況
もあるけれど、明野で取れたお米や野菜を食
べたいと思っている人がいる。だから、頑
張っていきたい。」
「農家の高れい化や人手不足になってい
て、農家をしている人の数は少ないけれど
がんばって広めていき、若い人たちに農
業を伝えて続けていってほしい。」

明野の農業をしている人は、 明野のことをどう思っているか？

- ・ 生きていくためには、食べ物が必要なので、明野地区でも多くの人が米や野菜を生産し、農地を守っています。そのことが、将来大切であると知ってもらえるとありがたいです。
- ・ 明野の人たちのおいしいという声や笑顔で元気をもらって農業をがんばることが出来ます。

市制 20 周年記念



出合い・つながり

～御菌町の食材を通して～



御菌小学校

令和 6 年度 3年生の取組

米農家 前村さんの話を聞いて

社会科の学習で校舎の屋上へ上がった。南には国道23号線がありたくさんの店が並んでいる。しかし、北の方角に見えたものは田や畑が多く、「みそのでも米作りがされているんだな」と気づくことができた。学校の近くの田で米作りをされている前村さんに話を聞いた。

話を聞かせていただき、新聞にまとめた。子どもたちは、その日から給食のご飯を大切に食べたり、米の成長を気にしたりしている様子が見られた。



＜前村さんのお話＞

米を作ることはとても大変で、稲刈りの時は8月後半なのでとても暑いです。稲刈りをした後のとれたてのお米はとてもおいしくて、自分の家族に食べさせてあげたいので続けています。



クロフネファーム案浦さんのお話を聞いて

保護者の方で、クロフネファームを経営する案浦さんからお話を聞いた。

＜案浦さんのお話＞

給食は赤黄緑のバランスをとって食べることが大切です。趣味や楽しいことをしようと思うと体が元気じゃなければできません。体を元気に健康にすることが大切です。そのために、腸が大切です。どんな生き物も腸がなければ生きていけません。腸が元気になるために、善玉菌が悪玉菌をやっつけなくてははいけません。食べると腸が元気になる食べ物は発酵食品です。

発酵食品とは、みそ汁、つけもの、ヨーグルト、納豆、チーズなどがあります。そのような発酵食品をとると体が元気になります。

ごはんを食べることはなぜ大事かというと、腸を元気にして、体を健康に保つためです。健康だと、いつもより楽しく過ごしたり、頑張って勉強ができます。

腸を元気にするために、体を元気に過ごすためにしっかり食べましょう。

児童はお話を聞いて、苦手な野菜を食べようと思う、ごはんを食べるのは大切だ、といった感想を持つことができた。



野菜農家 辻村さんの話をきいて

校区で数年前から野菜農家をしてみえる辻村さんの畑を見せていただいた。辻村さんはこだわりのミニトマトを育ててみえる。その畑を見せていただき、農家の大変さや、仕事にやりがいがあることなどのお話を聞くことができた。



<辻村さんのお話>

ミニトマトを作ろうと思ったのは、自分の子どもが、トマトが好きだったのがきっかけです。10月に苗を植えて、12月の終わりころからお店に出します。私が作るトマトはおいしさに自信があるので、トマトが嫌いな子もぜひ食べてほしいです。



ベリーみその店の見学

校区にあるショッピングセンターのベリーみそのに見学に行った。入ってすぐのところには旬の食べ物が並んでいた。おすすめのものが紹介されていたり、見やすいところに大きな看板があったり、お店の工夫を見つけることができた。地元の食材のコーナーもわかりやすいところにあった。



<店長さんのお話>

おすすめのものをたくさん紹介しています。
たくさんの人においしく食べてほしいです。お
客さんの笑顔を見るとうれしくなります。

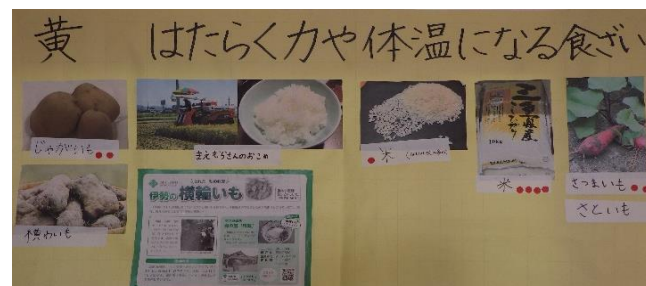


地元食材を調べよう

地元の食材を用いた献立作りをすることにより、ひとつひとつが大切に作られていることや献立を作るときの苦労や工夫を知り、感謝する気持ちを持たせたいと考えた。

まず、「ケログ毎日朝ごはんプロジェクト」に参加し、赤黄緑の食材を学習した。そして、地域の農家の方々にお話を聞いたり、保護者にも協力をあおぎ、自分達で地元の食材についての調べ学習をした。

さらに、その調べてきた食材を栄養職員の話を聞きながら赤黄緑に分けて献立作りをした。



市制 20 周年記念



20 年後に 残したい 二見町のもの



二見浦小学校

令和 6 年度 3 年生の取組

二見町を探検しよう

5月中旬に、光の街地区や溝口地区、茶屋地区、6月には荘地区へ町探検に出かけました。自分たちの地域には、何が



町探検の様子

あるのか、どのように利用されているのかを探しながら歩きました。これまでに行ったことのある場所のよさを新たに発見したり、疑問を持ったりと、さまざまな感想を持って帰ってきました。

毎回の町探検後は、見つけたことや感じたことなどを思い出し、全体で共有しました。また、それぞれの学級内で3つのグループに分かれ、各グループで、さらに調べたいことを話し合いました。

20年後に残したい二見町のもの

◎古くからの歴史あるところ

～夫婦岩、賓日館、興玉神社など～

賓日館は、国指定の重要文化財で、100年以上前に建てられた古い建物です。明治時代、伊勢神宮を参拝する人の休憩場所や宿泊施設でした。

二見町では、2月から3月にかけて「おひなさまめぐり」があり、子どもたちも多く参加しています。立派なお雛様が飾られているのを見に行ったら賓日館に興味を持つ児童もいました。賓日館の歴史を調べた児童は、かなり昔の建物なのに、きれいに保存されていることに驚き、これからもずっと残していきたいと考えました。

また、夫婦岩や興玉神社も残したいものとして挙げられました。

◎二見自慢の美味しいもの

二見には、美味しいものがたくさんあります。その中でも、残していきたいものとして、「岩戸の塩」や、「塩羊羹」、「酒饅頭」など古くからの和菓子、練り物、町中華などが挙げられました。また、新しくできた喫茶店の名前も挙げられました。

二見興玉神社の境内に新しくできた喫茶店に行き、店長さんにインタビューした児童は、「観光に来たたくさんの人に喜んでもらいたい。」という店長さんの思いを聞くことで、これからもお客さんのことを考えてくれる喫茶店を残していきたいと考えたようでした。

二見町のじまんできるところを発表したいな。

二見町にはいいところがたくさんあることに気づいた。



発表準備をする子どもたち

◎観光客でにぎわう場所

二見町には、夫婦岩の他にも観光客でにぎわう場所があります。その中の一つが伊勢シーパラダイスです。



みんなに調べたことを発表する子どもたち

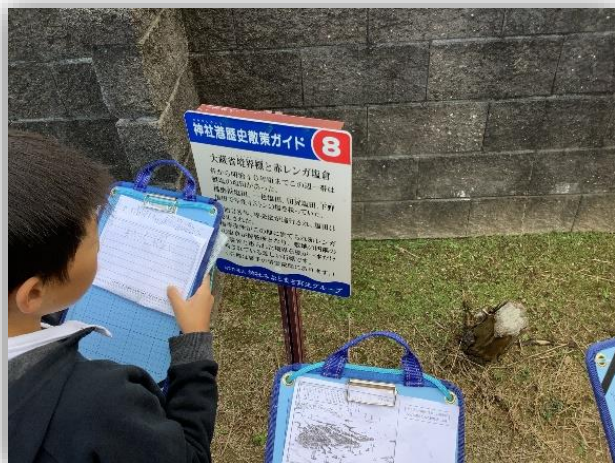
伊勢シーパラダイスは、たくさんの生き物と触れ合うことができる地域にある水族館です。子どもたちは、遠足で訪れたことがあり、とても身近な場所です。

職員の方にインタビューした児童は、訪れた人が楽しめるためのイベントが企画されていることを知り、さらに興味を持ったようでした。また、身近に生き物と触れ合えて、子どもから大人まで楽しめる場所を残していきたいと感じ、みんなにその思いを伝えていました。

市制 20 周年記念



私たちの海と町



みなと小学校

令和 6 年度 4 年生の取組

伊勢の海を守る

宮川浄化センター

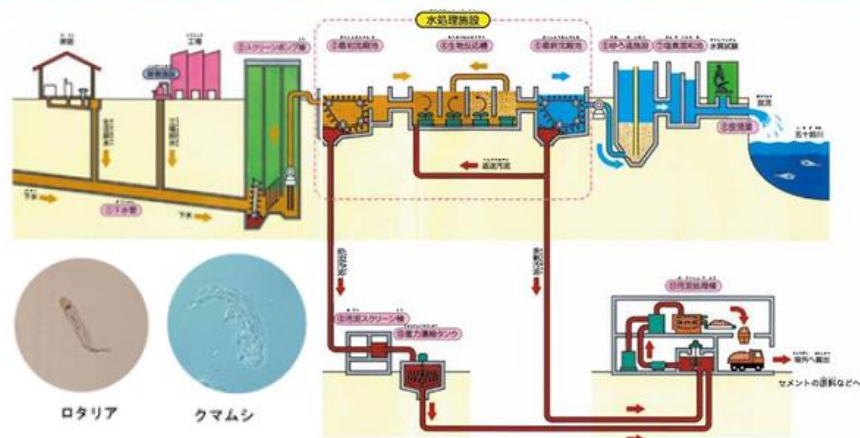


宮川浄化センター（おおみなと大湊）

伊勢の海がきれいなのは、宮川浄化センターのおかげです。水が汚いと、海や川に住む魚が生きていけないだけでなく、夏に海で遊ぶこともできなくなるかもしれません。わたしたちが暮らしているみなと小学校校区には、勢田川や鷺ヶ浜があります。これからも、きれいな伊勢の海を守っていくために、宮川浄化センターは、とても大切な施設です。

宮川浄化センターは、約1日かけてきれいな水にして、五十鈴川へ放流しています。汚れた水をきれいな飲める水にしてくれています。宮川浄化センターには、様々な建物があり、微生物がゴミを食べて水をきれいにしてくれています

宮川浄化センターでは、毎日24時間、安全な水を届けるために設備をかんしてくれています。そのためには、交代をする必要があります。なので、1人で管理するのではなく、複数人で管理します。



宮川浄化センターをこれからも残すためにわたしたちにできることは、できるだけ使う水を減らす努力をすることや、油や生ゴミを分別することです。そして1番大切なのは、浄化センターの大切さを伝えていくことだと思います。

みなと小学校の4年生は、毎年宮川浄化センターに見学に行きます。そして、「水をきれいにすることの大切さ」について学習します。これからも、わたしたちの大切な伊勢の自然を守っていききたいと思います。

神社港の歴史や文化

海の駅の歴史

昔から船で伊勢湾を渡り、伊勢に来る参宮客は多く、伊勢では参宮客に親しみを込めてどんどこさんと呼び、歓迎していました。その後、伊勢の海の玄関口として大いに賑わいました。明治時代、定期船（熱田港～神社港）が開かれてからは各地からの参宮客が殺到し、黄金時代を迎え大いに栄えました。そんな海の駅は神社港にあります。ぜひ、おこしてください。



ここは、清雲院という場所で、徳川家康のお墓として作られました。



これが勢田川にある『みずき号』です。

みなとまち館で知る 神社港の歴史

みなとまち館は、在りし日の港町の文化を多彩な資料や民具、船具を通して伝えています。そして、1階には歴史書や山口文庫などの書類や写真、チラシなどが展示、収蔵されています。2階には大漁旗や船具、工具などが展示、収蔵されています。ぜひ、みなとまち館へ行ってみてください。

東照山清雲院の歴史

徳川家康の側室於奈津の方が家康公の没後、公の菩提を弔わんと、寛永7年の夏に山田吹上松原に建立した寺です。寛文の大火で類焼し、尾上妙見町に再建。再び焼失。明治6年再建されたが廃仏棄釈の厄にて廃寺されました。先々代住職大盛海順師の奔走の労報い大正4年、清雲院は中興されました。家康公と於奈津の像が安置されています。なので、ぜひおこしてください。

赤レンガの塩倉の歴史

昔この辺一体には塩田があって、明治38年に専売法が施行され、塩田は廃止になって塩専売所ができ赤レンガの塩倉は保管所でした。敷地の四隅にあった「大蔵省」【今の税務署】と彫られた境界石標が1本だけ残っています。神社港の赤レンガを見にきてください。



神社港の赤レンガを実際見にいきました。

月に一回第一日曜日に行ってみて！『辰の市』

三重県伊勢市神社港には月に1回第一日曜日に『辰の市』というちょっとしたおみせの商品を売ってくれます。場所は神社港の海の駅前です。そういうイベントをしているのは、港町再生グループの人がいい街を作ろうと開催しています。島重や色々な屋台があります。ちなみに私たちのおすすめは一番端っこで売っているととても美味しいお弁当です。特に卵焼きが美味しいです。他にも色々、あられや、野菜、納豆やお饅頭を売っています。皆さんも月に一回第一日曜日に『辰の市』にきてみてください！



看板に書いてあるようにここは海の駅です。港町再生グループというのがあります。

人気な行事『おんべだい』テレビに出るほど有名!?

三重県伊勢市神社港には、1年に1回『おんべだい』という行事が開催されます。その『おんべだい』では、神社港の辰組の子供木遣をします。だんだんと参加する人の数は、減ってきていますががんばってやってくれている人もいます。木遣をした後は餅まきをします。なので、木遣をした後でも楽しめます。その『おんべだい』はテレビに出るほどの人気な行事です。多くの人と知り合えるので『おんべだい』という行事はものすごく大事な行事だと思います。ぜひ、『おんべだい』にきてみてください。

誰もが残したくなる鷺が浜へ!!

鷺が浜という名になった理由は？

倭姫命が飲み水を飲んでいて命は住んでいた鷺取の翁に清水をもらって水覧社を定め、大変喜んでいました。そのため、この浜を鷺取小浜と名付けて、その後に鷺ヶ浜と呼ばれるようになりました。

鷺が浜にいる外来生物は、約何種類いるのかを聞いてみたら…

鷺が浜には、約3種類の外来生物がいるらしいです。その中で一番減らしたい外来生物はコマツヨイグサです。コマツヨイグサは、葉が柔らかくて、少しギザギザのものもあり、根がすごく太くて在来生物のいばしょを少なくする、無くしたい一番抜かなければいけない草です。そして鷺が浜で草抜きをしたらコマツヨイグサだけで36Kgほど取れました。外来生物の種類は少ないなと思いましたが、「鷺が浜は」と言っていたのでまだまだありそうです。皆さんもコマツヨイグサを見つけたら抜いておいてください。

コマツ
ヨイグサ



残していきたい在来種の生き物



- ・はまひるがお
- ・チガヤ
- ・はまぼうふう
- ・はまごう

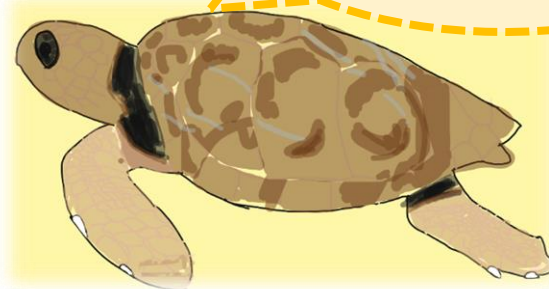
という在来種を私たちは残したいと思いました。皆さんもこの写真を見て、この在来種を残しましょう!!

地球温暖化と生き物

地球温暖化とは、大気中に含まれる「**温室効果ガス**」が大気中に放出され、地球全体の平均気温が上昇している現象のことです。気候変動により異常気象が頻発する恐れがあり、自然生態系や生活環境、農業などへの影響が懸念されています。温暖化が進むと生物種が3割も絶滅してしまいます。**アカウミガメ**はメスばかりになってしまい、貝が取れなくなってしまうです。

アカウミガメが卵を産む所を間違えた時の対処法は？

アカウミガメは年に2回卵を産みに来ることがあります。ところがゴミがあつたり、外来生物がいたりすると海の近くの危険な場所に卵を産み、流されることがあります。そんな危険な場所に卵を産むと安全な鳥羽水族館に移して保護します。なのでゴミを拾ったり、外来生物を抜いたりして**アカウミガメ**が安全に卵を産める環境にしましょう。



驚が浜を誰もが残したくなるようなことが 5個書いてあるよ。最後の草抜き体験のところまで見てね！！

アカウミガメ

草抜き体験をしたよ！！

私たちは草抜き体験をしました。みなと小の4年生は毎年この活動に参加させてもらっています。そこでみなさんに少しでも、**コマツヨイグサ**などを抜いてもらいたいと思っていて、抜かずにそのままにしておくと**コマツヨイグサ**などにより生き物が少なくなってしまう可能性があり、いろいろな浜辺に生えてしまうかもしれません。そして、カメなどの生き物が卵を産めなくなり、カメの数がどんどん減ってしまつて、**絶滅してしまう可能性**があります。なので、皆さんが**コマツヨイグサ**を抜いてくれば、生き物も増えていくかもしれません。**どうか協力お願いします。**